

山梨県内分布調査報告書

(平成20年1月～12月)

2009. 3

山梨県教育委員会

山梨県内分布調査報告書

(平成 20 年 1 月～ 12 月)

2009. 3

山 梨 県 教 育 委 員 会

序

本書は、平成20年1月から同年12月まで、文化庁の補助金を得て実施した山梨県内分布調査の試掘調査並びに立会調査の結果をまとめたものであります。

平成20年の調査件数は、試掘調査23件、立会調査7件の合計30件で、事業主体別では、国7件、県15件、独立行政法人鉄道建設・運輸施設設備支援機構（以下、「鉄道・運輸機構」と略す）4件、中日本高速道路株式会社4件となります。

試掘調査23件の事業主体別では、国7件、県9件、鉄道・運輸機構3件、中日本高速道路株式会社4件で、前年と比較して14件増えました。これは中部横断自動車道建設事業9件および山梨リニア実験線建設事業3件に伴う試掘調査の増加が、要因としてあげられます。

国事業に伴う試掘調査としては、道路建設事業6件（国道52号改良事業1件、中部横断自動車道建設事業5件）、建物建設等事業1件（防災ステーション建設事業）があります。中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査では、南部町地内で新たに寺前遺跡が発見され、平成20年10月から12月にかけて本調査を実施しました。

また、縄文時代の遺構や遺物が確認された原間遺跡については、平成21年度に本調査を実施する予定です。増穂町青柳河岸跡での防災ステーション建設事業では、近世から近代の青柳河岸へ続く「馬入本道」が確認されたことから、道の範囲や内容を把握し、記録写真撮影等による記録保存の措置を図りました。

県事業に伴う試掘調査としては、道路建設事業1件（吉田河口湖バイパス建設事業）、建物建設・解体事業4件（燃料電池研究開発関連事業、県庁舎耐震化等事業、かえで支援学校車庫棟新築事業、峡東第四総合学科高校建設事業）、河川改修事業3件（平等川河川改修事業）、公園整備事業1件（風土記の丘・曾根丘陵公園整備事業）があります。富士河口湖町滝沢遺跡での吉田河口湖バイパス建設事業では、主に平安時代の遺構や遺物が確認され、平成21年度以降に本調査を実施していくこととなりました。甲府市八幡神社遺跡での燃料電池研究開発関連事業では、縄文時代を主体とする遺物包含層が確認され、平成20年7月から9月にかけて本調査を実施しております。甲府城跡での県庁舎耐震化等事業では、良好な状態で石垣が保存されているが判明したことから、今後の文化財保護の対応を図ることが確認されました。風土記の丘・曾根丘陵公園整備事業では、国指定史跡丸山塚古墳の周溝などが確認されたことから、これらの遺構を保護する計画で整備を行うこととなりました。

鉄道・運輸機構による山梨リニア実験線（工食用道路・作業ヤード）建設事業に伴う試掘調査では、遺跡の発見には到りませんでした。用地未取得地において今後も継続して調査を実施していくことになっております。

中日本高速道路株式会社による増穂町青柳河岸跡、藤田池遺跡、町屋口遺跡、市川三郷町谷津遺跡での中部横断自動車道建設事業では、町屋口遺跡において青柳河岸に関わる「お蔵道」が確認されたため、今後協議、調整を図りながら平成22年度以降に本調査を実施していくことが協議されました。

立会調査7件の事業主体別では、県6件、鉄道・運輸機構1件（山梨リニア実験線建設事業）となります。県事業に伴う立会調査としては、砂防建設事業1件（芦ノ沢川砂防建設事業）、建物建設・解体等事業3件（県庁朝日別館解体事業、県庁駐輪場屋根設置事業、かえで支援学校車庫基礎撤去事業）、河川改修事業1件（赤芝川河川改修事業）、公園整備事業1件（風土記の丘・曾根丘陵公園整備事業）であります。いずれの立会調査も遺跡の存在が確認されず、事業者にも工事を進めても差し支えない旨を報告しております。

本報告書が文化財保護と開発事業との円滑な調整に役立つとともに、多くの方々の文化財に対する理解と保護の一助となれば幸いです。

未筆ながら、ご協力を賜った関係機関各位、並びに直接調査にあられた方々に厚く御礼申し上げます。

2009年3月

山梨県埋蔵文化財センター

所長 新津 健

例 言

- 1 本報告書は、山梨県教育委員会が文化庁の補助金を受けて、平成20年1月から同年12月までに山梨県埋蔵文化財センターが実施した、県内の試掘調査並びに立会調査の結果をまとめた報告書である。
- 2 本報告書は、国・県・中日本高速道路株式会社の道路建設、建物建設事業、鉄道・運輸機構のリニア実験線建設事業などの試掘調査と県の砂防建設、建物建設事業などの立会調査結果をまとめた報告書である。
- 3 本報告書における試掘・立会調査は、山梨県埋蔵文化財センターが実施し、各事業の調査担当者については、本文に明記した。なお、本文については、各事業結果報告に基づき保坂和博、大木丈夫が編集した。
- 4 試掘・立会調査における調査状況写真及び記録図面などについては、各事業調査担当者が行い、その結果に基づき本報告書の執筆・編集などは、保坂・大木が行った。
- 5 本報告書の出土品及び記録図面、記録写真などは、山梨県埋蔵文化財センターにおいて保管している。なお、試掘調査の結果、本発掘調査にいたる場合については、遺物、記録図面、写真などを調査資料として当該担当者を引き継ぎを行った。
- 6 試掘調査作業員並びに整理作業員は次のとおりである。(敬称略・順序不同)

生活関連土木施設整備事業(千野富子、宮久保あさの、村田勝利)、中部横断自動車道建設事業(増穂IC:遠藤実雄、今津武男、望月明、名取茂、山村隼人、荒木昭彦、松野達夫、古屋袈裟男)、六郷~増穂地区:名取茂、山村隼人、南部IC:佐野欣二、佐野正之、佐野正紀、坂主範子、小沢利一、遠藤重子、寺田美智、仲澤清祥、仲澤昇子、望月久夫、望月広子、大窪良子)、平等川河川改修事業(甲府市上阿原・七沢地区:千野富子、宮久保あさの、村田勝利、小菅春江、鮫田勝男、春日居町鎮目地区:倉田勝子、渡辺百合子)、燃料電池研究開発事業(小菅春江、鮫田勝男、千野富子)、県庁舎耐震化等事業(雨宮小春、小池幹子、佐藤美喜男、佐田金子、末木千並、野沢まゆみ、松野達夫)、山梨リニア実験線建設事業(大野寺地区:小菅春江、鮫田勝男、千野富子、竹居地区:長田美代子、沢登淳子、上黒駒地区:雨宮久美子、栗原礼子、深澤茂子)、一般国道52号(上石田)改良事業(倉田勝子、金井いく代、渡辺百合子)、かえで支援学校車庫棟新築事業(倉田勝子、渡辺百合子)、峡東第四総合学科高等学校建設事業(雨宮久美子、栗原礼子、深澤茂子)、防災ステーション建設事業(荒木昭彦、松野達夫、古屋袈裟男)、吉田河口湖バイパス建設事業(荒木昭彦、松野達夫、古屋袈裟男)、整理作業員(小菅春子、佐野眞雪、垣内律子)

- 7 本試掘・立会調査及び整理作業について、次の方々にご指導、ご協力をいただいた。ここに記して感謝の意を表したい。(順不同)

国土交通省甲府河川国道事務所・富士川上流出張所、鉄道運輸機構、中日本高速道路株式会社、山梨県総務部管財課、山梨県企画部リニア交通課、山梨県土整備部道路整備課・住宅課・中北建設事務所・峡東建設事務所・富士・東部建設事務所、山梨県教育委員会学校施設課、山梨県立石和高等学校、山梨県立かえで支援学校、山梨大学、甲府市教育委員会、笛吹市教育委員会、山梨市教育委員会、増穂町教育委員会、市川三郷町教育委員会、南部町教育委員会、富士河口湖町教育委員会

凡 例

- 1 各事業の位置図は、1/25,000のスケールを基本としている。
- 2 図版縮尺については、図版内のスケールにより統一していない。
- 3 実測図及び写真は主要なものに限った。

本文目次

序 例言・凡例 目次

I 試掘調査

県内分布調査発掘事業一覧・全体事業位置図	1
1 生活関連土木施設（丸山塚古墳北側）整備事業	2
2 中部横断自動車道（増穂インターチェンジ）建設事業	4
3 平等川河川（甲府市上阿原・七沢地内）改修事業	8
4 中部横断自動車道（南部インターチェンジ）建設事業	9
5 燃料電池研究開発関連事業	10
6 県庁舎耐震化等事業	11
7 山梨リニア実験線（御坂町大野寺地区）建設事業	13
8 平等川河川（甲府市上阿原・七沢地内）改修事業	14
9 中部横断自動車道（南部インターチェンジ）事業	15
10 一般国道52号（上石田）改良事業	17
11 中部横断自動車道（増穂インターチェンジ）建設事業	18
12 かえで支援学校車庫棟新築事業	19
13 山梨リニア実験線（御坂町竹居地区）建設事業	20
14 山梨リニア実験線（御坂町上黒駒地区）建設事業	21
15 峡東第四総合学科高校建設事業	22
16 平等川河川（春日居町鎮目地区）改修事業	23
17 防災ステーション建設事業	24
18 中部横断自動車道（八之尻トンネル）建設事業	26
19 中部横断自動車道（増穂インターチェンジ）建設事業	27
20 中部横断自動車道（南部区間）建設事業	29
21 中部横断自動車道（南部区間）建設事業	30
22 中部横断自動車道（南部区間）建設事業	34
23 吉田河口湖バイパス建設事業	35

II 立会調査

24 芦ノ沢川砂防（牧丘町西保中地区）建設事業	37
25 県庁朝日別館解体事業	38
26 県庁駐輪場屋根設置事業	38
27 かえで支援学校車庫基礎撤去事業	39
28 風土記の丘・曾根丘陵公園整備事業	40
29 山梨リニア実験線（御坂町上黒駒地区）建設事業	41
30 赤芝川河川（牧丘町牧平地区）改修事業	42

県内遺跡分布調査発掘事業一覧

No.	事業名（所在地）	調査面積	調査対象面積	調査期間
No.	試掘調査			
1	生活関連土木施設（丸山塚古墳北側）整備事業<甲府市下曾根町字岩清水 899 外地内>	約 130㎡	約 1,930㎡	平成 20 年 2 月 14 日～ 15 日
2	中部横断自動車道（増穂 IC）建設事業<南巨摩郡増穂町青柳字整理地内>	約 360㎡	約 9,800㎡	平成 20 年 2 月 22 日、25 日～ 27 日
3	平等川河川改修事業<甲府市上阿原字村東 16-4 外地内>	約 120㎡	約 2,050㎡	平成 20 年 1 月 28 日～ 29 日
4	中部横断自動車道（南部 IC）建設事業<南巨摩郡南部町中野字寺前 4085-1B 外地内>	約 288㎡	約 5,450㎡	平成 20 年 2 月 18 日～ 20 日、3 月 7 日
5	燃料電池研究開発関連事業<甲府市宮前町 6-43 地内>	約 90㎡	約 2,000㎡	平成 20 年 5 月 8 日～ 5 月 12 日
6	県庁舎耐震化等事業<甲府市丸の内 1 丁目地内>	約 52.5㎡	約 52.5㎡	平成 20 年 6 月 14 日～ 22 日
7	山梨リニア実験線（工事用道路）建設事業<笛吹市御坂町大字野寺 1839 外地内>	約 108㎡	約 3,660㎡	平成 20 年 5 月 15 日～ 16 日
8	平等川河川改修事業<甲府市上阿原字整理地 96-2 外地内>	約 59㎡	約 1,365㎡	平成 20 年 5 月 21 日～ 22 日、8 月 27 日
9	中部横断自動車道（南部 IC）建設事業<南巨摩郡南部町中野字清水原 4908-2 外地内>	約 365㎡	約 14,000㎡	平成 20 年 6 月 16 日～ 20 日
10	一般国道 52 号（上石田）改良事業<甲府市上石田 2 丁目 835-1 外地内>	約 177㎡	約 4,524㎡	平成 20 年 6 月 23 日～ 25 日
11	中部横断自動車道（増穂 IC）建設事業<南巨摩郡増穂町大字大栢 771-1 外地内>	約 180㎡	約 9,065㎡	平成 20 年 8 月 11 日～ 12 日
12	かえて支援学校車庫棟新築事業<甲府市東光寺 2-25-1-1 外地内>	約 62㎡	約 366㎡	平成 20 年 9 月 1 日
13	山梨リニア実験線（工事用道路）建設事業<笛吹市御坂町竹居 4781 地内>	約 58㎡	約 334㎡	平成 20 年 9 月 8 日～ 9 日
14	山梨リニア実験線（工事用道路・作業ヤード）建設事業<笛吹市御坂町上黒駒 6177 外地内>	約 84㎡	約 6,250㎡	平成 20 年 9 月 16 日～ 17 日
15	峡東第四総合学科高校建設事業<笛吹市石和町市部 3 地内>	約 40㎡	約 8,100㎡	平成 20 年 9 月 24 日～ 25 日
16	平等川河川改修事業<笛吹市春日居町鎮目 1536-11 外地内>	約 24㎡	約 530㎡	平成 20 年 10 月 1 日
17	防災ステーション建設事業<南巨摩郡増穂町青柳 1706 外地内>	約 175㎡	約 10,000㎡	平成 20 年 11 月 17 日～ 21 日
18	中部横断自動車道（八之尻トンネル）建設事業<西八代郡市川三郷町字谷津 1772-1 外地内>	約 26㎡	約 3,500㎡	平成 20 年 12 月 8 日
19	中部横断自動車道（増穂 IC）建設事業<南巨摩郡増穂町字青柳 1148-1 外地内>	約 547.3㎡	約 12,370㎡	平成 20 年 12 月 8 日～ 9 日、11 日～ 12 日
20	中部横断自動車道（南部区間）建設事業<南巨摩郡南部町中野 4171 外地内>	約 64㎡	約 400㎡	平成 20 年 11 月 18 日～ 19 日
21	中部横断自動車道（南部区間）建設事業<南巨摩郡南部町本郷字原岡 309 外地内>	約 900㎡	約 11000㎡	平成 20 年 11 月 18 日～ 12 月 2 日
22	中部横断自動車道（南部区間）建設事業<南巨摩郡南部町本郷字上大神 366 外地内>	約 138㎡	約 1,000㎡	平成 20 年 11 月 18 日～ 12 月 2 日
23	吉田河口湖バイパス建設事業<南都留郡富士河口湖町河口 534 外地内>	約 516㎡	約 5,908㎡	平成 20 年 12 月 15 日～ 19 日
No.	立会調査			
24	芦ノ沢川砂防建設事業<山梨市牧丘町西保中宇大村上地内>	約 2㎡	約 4,683㎡	平成 20 年 2 月 1 日
25	県庁朝日別館解体事業<甲府市朝日 3 丁目 11-3 地内>	約 2㎡	約 300㎡	平成 20 年 2 月 7 日、3 月 5 日
26	県庁駐輪場屋根設置事業<甲府市丸の内 1 丁目地内>	約 2.56㎡	約 2.56㎡	平成 20 年 7 月 15 日
27	かえて支援学校車庫基礎撤去事業<甲府市東光寺 2-25-1-1 外地内>	約 13.5㎡	約 300㎡	平成 20 年 6 月 20 日
28	風土記の丘・曾根丘陵公園整備事業<甲府市下曾根町字岩清水 899 外地内>	約 91㎡	約 2,000㎡	平成 20 年 11 月 18 日、12 月 11 日、12 日、18 日
29	山梨リニア実験線（工事用道路）建設事業<笛吹市御坂町上黒駒 3632 外地内>	約 20㎡	約 450㎡	平成 20 年 11 月 5 日～ 6 日
30	赤芝川河川改修事業<山梨市牧丘町牧平 1954 外地内>	約 130㎡	約 320㎡	平成 20 年 12 月 1 日、平成 21 年 1 月 15 日



平成 20 年県内分布調査全体事業位置図

1 生活関連土木施設整備事業 試掘 《国指定史跡丸山塚古墳》

所在地	甲府市下曾根町字岩清水 899 外地内	調査期間	平成 20 年 2 月 14 日～ 15 日
担当者	小野正文・坂本美夫・正木季洋	調査面積	130㎡

調査経緯及び事業内容と結果

今回の調査対象地は甲府市下曾根町地内にある国指定史跡丸山塚古墳の北側にあり、風土記の丘曾根丘陵公園の新敷地として取得され、用地内に駐車場と遊歩道建設が計画された。

計画に先立ち、平成 20 年 2 月 14 日から 15 日の期間で試掘調査を行い、対象地の中央部に 3 本と南部に 3 本の計 6 本のトレンチを南北方向に設定し、重機による掘削を行った後、人力による遺構・遺物の有無確認作業を行った。

今回の試掘調査において確認された土層は、地表から 1 層：暗褐色土層（耕作土）・2 層：褐色土層・3 層：角礫を多量に含む暗褐色土層・4 層：暗褐色土層・5 層：暗黄褐色土中に黒褐色土粒を多量に含む自然堆積層・6 層：暗黄褐色土中に黒褐色土粒と角礫を多量に含む自然堆積層の順に堆積し、いずれも北に向かって傾斜している。

このうち 3 層は 1～3・5 号トレンチにおいて堆積が認められ、丸山塚古墳周溝の外側に設けられた周堤帯の可能性が考えられたが、範囲や土層の堆積状況から自然作用に起因した堆積によるものと思われる。

1～3 号トレンチの 6 層上面において、それぞれ 2 つの堆積傾斜変換点が認められている。各トレンチの北側の

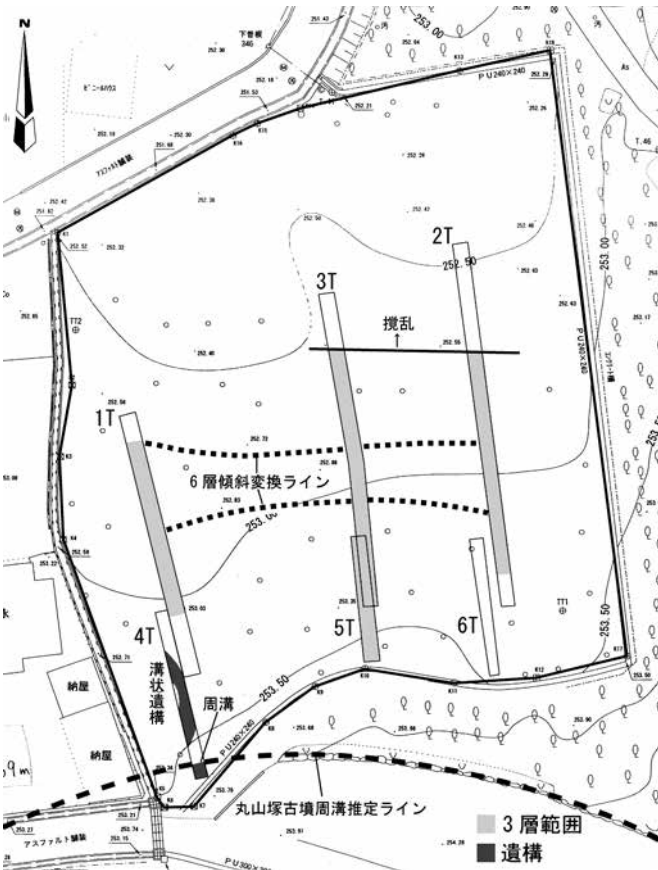


第 1 図 試掘調査 位置図

の変換点を結んだラインは、地表部分の等高線に近い状況が認められ、2・3 号トレンチにおいては変換点以北の傾斜が急傾斜に変化し、湧水が確認されることから、自然作用による変化の可能性が高いと考えられる。また、南側の変換点を結んだラインは丸山塚古墳と同心円状のラインを推定することが可能であるが、これが人為的なものか、自然作用に起因するかについては現時点において不明である。

また、調査区北西端に設定した 4 号トレンチでは南端部に丸山塚古墳の周溝端、中央部に溝状遺構の 2 つの遺構が確認されている。中央部の溝状遺構には水路、周溝墓や古墳の周溝等の性格が考えられるが、民家や水路に近く、湧水が著しい為、トレンチを拡張して全体形を確認することができなかった。遺物は出土していない。

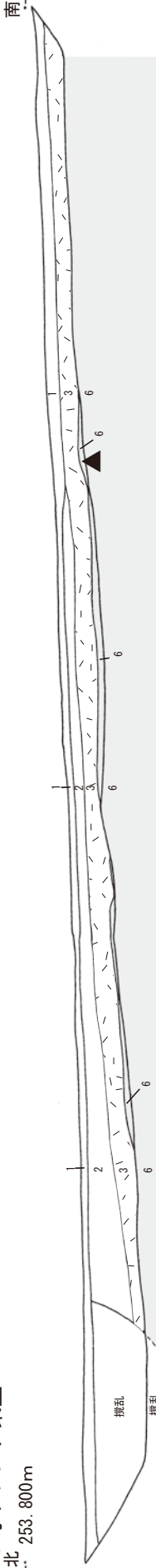
調査の結果、駐車場の範囲については 2・3 号トレンチ北端の攪乱範囲以北では可能であるが、それ以南の範囲については、国史跡の保護上、安全帯を設置する必要があるため、その保存範囲については、今後さらなる検討が必要である。また、遊歩道については 4 号トレンチ中央部において発見された溝状の遺構をさけて計画する必要がある旨を報告した。



第 2 図 試掘トレンチ配置図

3号トレンチ東壁

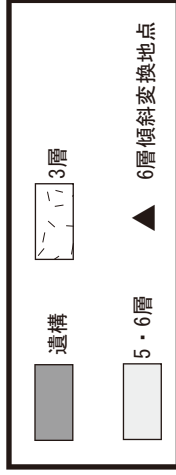
北 253.800m



基本土層

- 1: 暗褐色土。(耕作土)
- 2: 褐色土。
- 3: 黒褐色土。径約10cm以下の角礫をさわめて多量。
- 4: 暗褐色土。
- 5: 黄褐色土を主体とし、黒褐色土粒を多量に含む層。
- 6: 黄褐色土を主体とし、黒褐色土粒を多量含む。径約10cm以下の角礫多量。

4号トレンチ



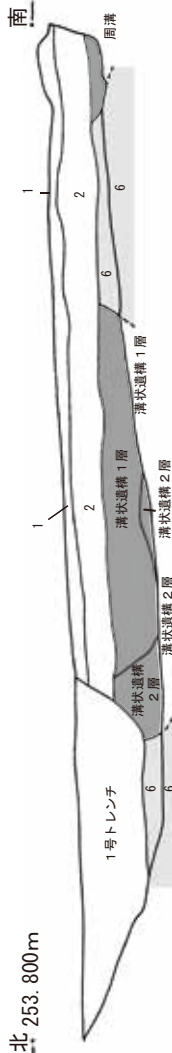
溝状遺構

丸山塚古墳周溝



4号トレンチ東壁

北 253.800m



周溝

黒褐色土。径約10cm以下礫多量。

溝状遺構

- 1: 黒褐色土。径約5cm以下礫少量。溝状遺構。
- 2: 黒褐色土。径約15cm以下の礫多量。溝状遺構。



4号トレンチ 溝状遺構

第3図 丸山塚古墳北 試掘トレンチ土層図

2 中部横断自動車道(増穂インターチェンジ)建設事業 試掘《藤田池遺跡・青柳河岸跡》

所在地	南巨摩郡増穂町青柳字整理地内	調査期間	平成20年2月22日、25～27日まで4日間
担当者	山本茂樹・上原健弥	調査面積	360㎡

調査経緯及び事業内容と結果

試掘調査は、2月22日、25日から27日までの4日間で行われ、用地取得地および試掘溝の位置については、第2図のとおりで、今回の試掘対象面積は約9,800㎡の水田地帯と現道の掘削で、試掘溝を計9本(8～15)設定し約360㎡を調査した。

試掘調査の目的は、「河岸お蔵道」の有無確認とそれに伴う記録保存としての実測図、藤田池遺跡の範囲確認及び遺跡確認が目的である。

平成19年11月19日から21日にかけて、現道(従来から想定されていた「河岸お蔵道」)を挟んだ両側の試掘調査が実施されており(1～7)、その時には道は確認されなかった。このことから、現道の下に「河岸お蔵道」が存在していることが明らかとなった。このため工事着手前に試掘調査を実施し、道が確認された場合には道の位置図および断面図を作成し記録保存することとなっていたため、記録図面作成および記録写真撮影などを行った。試掘調査は、アスファルトを除去した後に、現道に直交する2本の試掘溝を設定し(第3図)、第8-1試掘溝は、幅2m、長さ14.6m、8-2試掘溝は、幅3.8m、長さ4mである。道は3面確認され、最下層の面を1面とし順次2面、3面と上がっていく。(BM=242.874m、水系レベル=241.50m)

(8-1 試掘溝)

1面: 現地表から約1.45m(標高=240.65m)下に存在する。道は茶褐色粘土層で、上面には小砂利が敷かれており、非常に締まっていて硬い。道幅は、2.60m前後である。また、砂利の敷かれた幅は、1.5m前後である。

2面: 現地表から約1m(標高=241.10m)下に位置し、1面の上面から約45cm上に存在する。道幅は、2.25m前後である。また、砂利が敷かれた幅は1.5m前後で、1面とほとんど変わらない。

3面: 現地表から約0.85m(標高=241.24m)下に位置し、2面の上面から約12cm上に存在する。道幅は、2.5m前後である。また、砂利が敷かれた幅は2.4m前後であるが、道の北側では掘削を受けている。

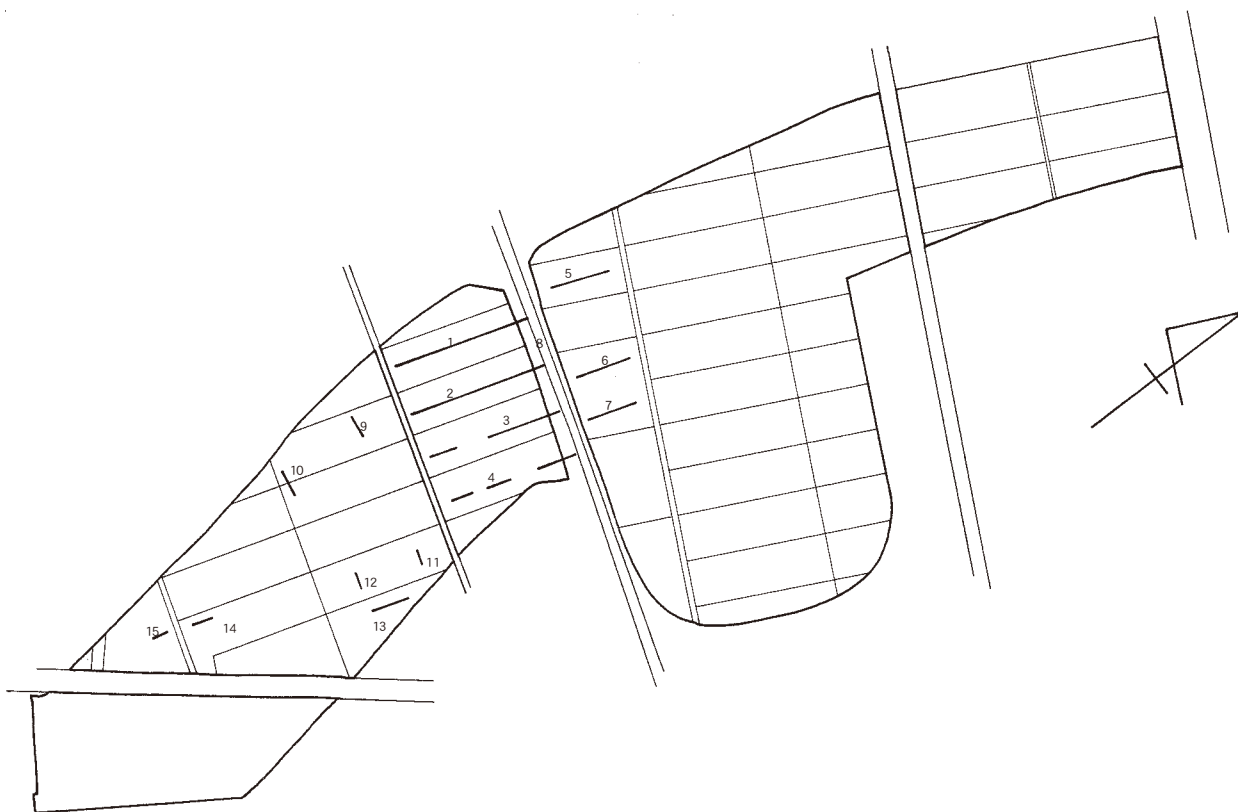
8-1試掘溝では出水が多く、そのためか道の両脇での土層の分層には困難を要した。これは、道の崩壊を意味しているものと考えられ、そのため分層が困難であったものと思われる。

(8-2 試掘溝)

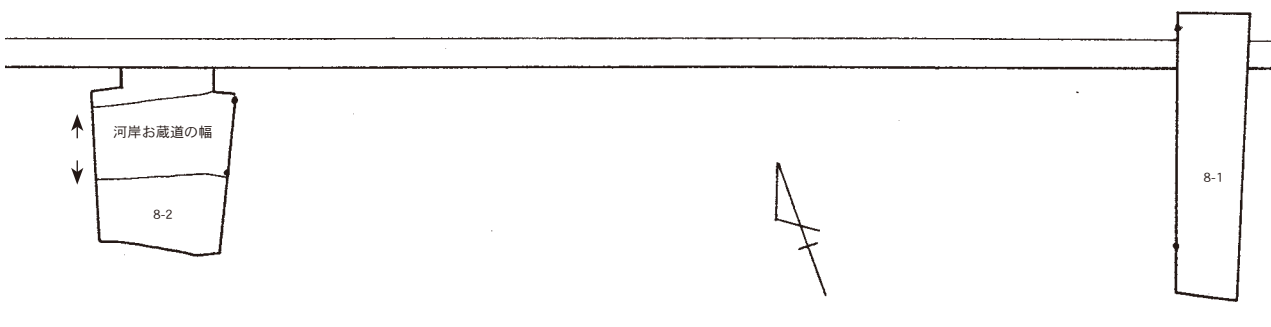
8-1試掘溝から西へ27mの地点に設定した。



第1図 中部横断自動車道(増穂インターチェンジ)建設事業位置図

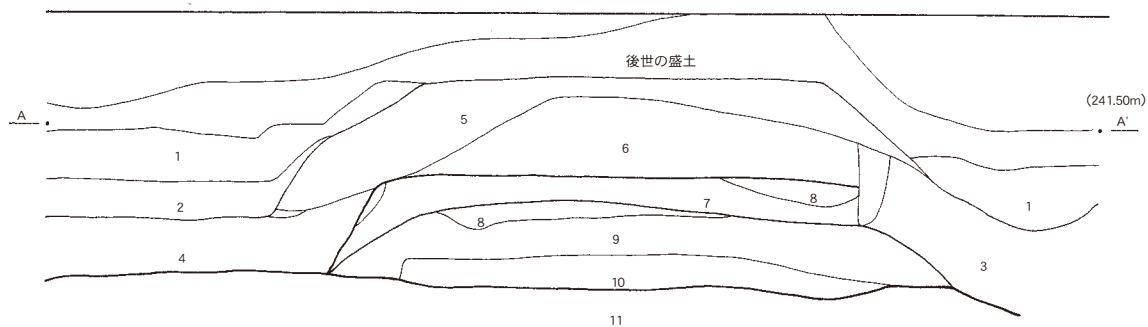


第2図 試掘溝設定図



8の拡大(1/200)

第3図 試掘溝位置図



- | | | | |
|------------|-------------------|------------|--------|
| 1: 灰茶褐色砂質土 | 5: 茶褐色砂質粘土 | 9: 茶褐色砂質粘土 | (1/40) |
| 2: 茶褐色砂質土 | 6: 茶褐色砂質土 | 10: 茶褐色砂質土 | |
| 3: 茶褐色粘土 | 7: 茶褐色粘土(上面に砂利あり) | 11: 茶褐色粘土 | |
| 4: 赤茶褐色粘土 | 8: 砂利 | | |

第4図 8-1 試掘溝土層図

1面：現地表から1.5m下に存在する（標高＝240.60m）。道幅は、2.2m前後である。青灰色粘土層を削ってその上に茶褐色粘土を盛り、上面に砂利が敷かれる。また、道の南側では、青灰色粘土層を道に沿って掘り込みが認められ、その中に握り拳大の礫を入れていることから排水施設と考えられるが、8-1 試掘溝では確認されない。

2面：現地表から1.15m下に位置する（標高＝241.05m）。1面からは、約35cm上に存在する。道幅は、2.3m前後である。

3面：現地表から0.8m下に位置する（標高＝241.40m）。2面からは、35cm上に存在する。道幅は、1.95m前後である。

以上の結果から、1面は江戸時代の青柳河岸が造られた頃と考えられ、2面は幕末から明治頃の絵図に描かれた頃の道と思われる。3面は明治20年以降の陸地測量部による地図の頃に存在していた道と思われる。

第9 試掘溝：幅約4m、長さ約15m、現地表から青灰色粘土までの深さは1.78m（標高＝240.208m）である。古銭（寛永通宝）1点（標高＝241.109m）と鉄製カマ（標高＝240.931m）が見つかった。見つかった層は、道の3面より新しい層であることから明治以降と判断される。遺構は確認されない。

第10 試掘溝：幅約3m、長さ約13m、現地表から青灰色粘土までの深さは1.77m（標高＝240.146m）である。遺構は確認されない。

第11 試掘溝：幅4.5m、長さ10m、現地表から青灰色粘土までの深さは1.99mで、遺構は確認されない。

第12 試掘溝：幅3.4m、長さ8.2m、現地表から青灰色粘土までの深さは2.25m（標高＝239.675m）である。7層上面で陶器が見つかった。（標高＝241.007m）これは、青灰色粘土層より1.33m上であり、道の3面よりも新しい層であることから明治以降と判断される。遺構は確認されない。

第13 試掘溝：幅3.4m、長さ9.9m、現地表から青灰色粘土までの深さは2.1m（標高＝238.980m）である。遺構は確認されない。

第14 試掘溝：幅4.4m、長さ23.3m、現地表から青灰色粘土までの深さは1.88m（標高＝240.136m）である。遺構は確認されない。

第15 試掘溝：幅3.3m、長さ6.6m、現地表から青灰色粘土までの深さは2.07m（標高＝240.024m）である。遺構は確認されない。

結果

絵図に描かれた「河岸お蔵道」が確認され、記録保存として図面作成を実施した。また、第9 試掘溝から第15 試掘溝にかけて調査を行ったが、遺構は確認されなかった。

なお、絵図によると「作場通ひ道」が描かれており、「町屋口遺跡」でも確認され、この道の下には水路が造られていたことが明らかにされているため、今後、パーキングエリア造成工事の際には「作場通ひ道」の確認のために試掘調査が必要であり、確認された場合には本調査を必要とする。



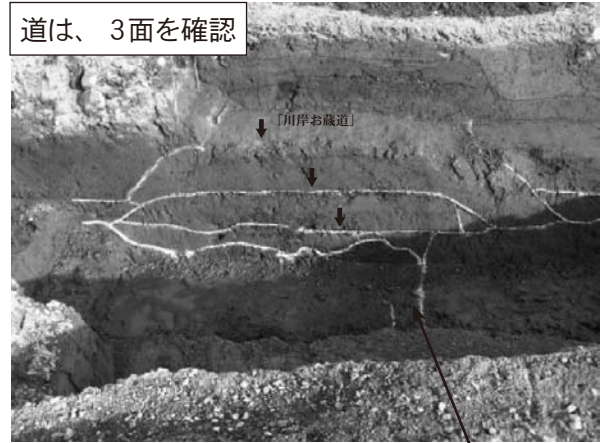
河岸お蔵道：試掘調査地点西から東へ撮影



8-1 試掘溝：東から西へ撮影

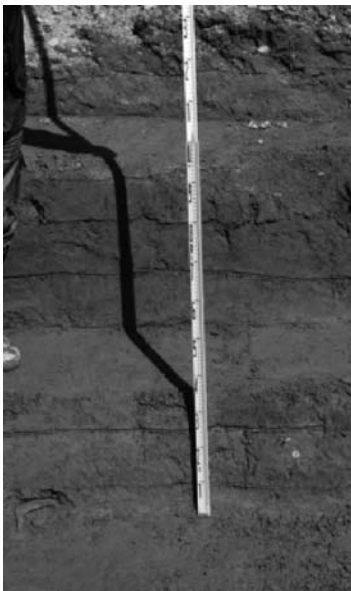


8-2 試掘溝：南から北へ撮影 平面の白線は「河岸お蔵道」



暗渠排水のためか小振りの石が入り込んである

8-2 試掘溝：西から東へ撮影



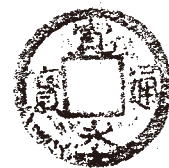
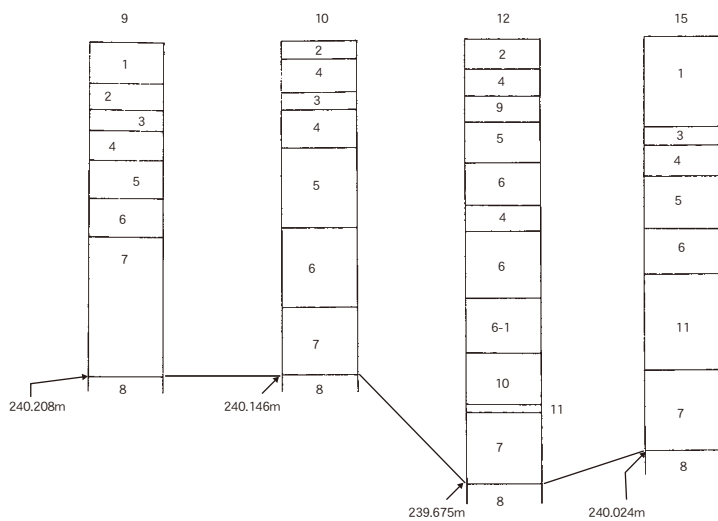
第9 試掘溝：南から北へ撮影



第9 試掘溝：西から東へ撮影



第10 試掘溝：西から東へ撮影



(1/1)

- 1：表土 2：灰色粘土 3：茶褐色土
- 4：灰茶褐色粘土 5：茶褐色砂質土
- 6：灰茶褐色砂質粘土 6-1：6層より灰色
- 7：灰茶褐色粘土 8：青灰粘土
- 9：暗茶褐色砂質粘土 10：灰茶褐色砂質粘土
- 11：暗茶褐色粘土

第5図 試掘溝の土層概略図と古銭

3 平等川河川（甲府市上阿原・七沢地内）改修事業 試掘《堤防遺跡推定地・七沢の渡し場》

所在地	甲府市上阿原字村東 16-4 外地内	調査期間	平成 20 年 1 月 28 日～ 29 日
担当者	坂本美夫・猪股一弘・正木季洋	調査面積	120m ²

調査経緯及び事業内容と結果

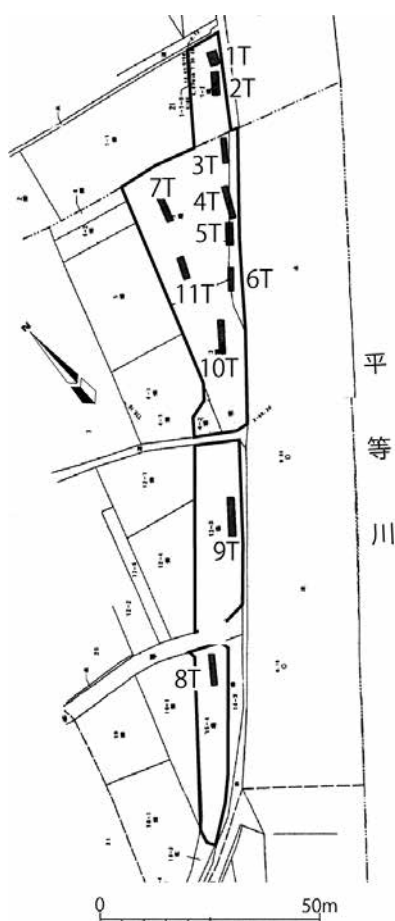
試掘調査対象地内を走る下水道管・温泉管を避けて長さ 4～10 m、幅 1～3 m のトレンチを計 11 本設定し、重機による掘削、および人力による平面及び断面観察・記録を行った。

1・2 号トレンチにおいては耕作土層下に 3 層の砂層及び砂礫層の堆積を確認したが、いずれも水平堆積している状況にある。なお、1 号トレンチにおいては深さ約 95cm の地点で湧水を確認している。3～7・10・11 号トレンチにおいては、地表から 90～120cm の深さまで整地層を確認し、この層以下では河川堆積層が水平に堆積する状況を確認した。8・9 号トレンチでは地表下約 10～20cm の厚さで堆積する表土層の下に約 60～70cm の厚さの黄褐色土の客土層を、客土層下に河川堆積層が水平に堆積する状況を確認した。遺物や遺構はいずれのトレンチからも確認できなかった。

以上のことから、今回の試掘調査範囲内に埋蔵文化財は確認されなかったため、工事を行うに当たり、支障ないものと判断される。



第 1 図 試掘調査 位置図



第 2 図 試掘トレンチ配置図



8号トレンチ

4 中部横断自動車道（南部インターチェンジ）建設事業 試掘《南部町中野地内》

所在地	南巨摩郡南部町中野寺前 4085-1B 外地内	調査期間	平成 20 年 2 月 18 ～ 20 日、3 月 7 日
担当者	坂本美夫・依田幸浩	調査面積	288㎡

調査経緯及び事業内容と結果

試掘調査地点は、南部町中野地内国道 52 号西側の中部横断自動車道南部インターチェンジ予定地である。調査は、インターチェンジ予定地の内、平成 19 年 12 月 31 日までに土地の引き渡しを終了している部分に試掘トレンチを合計 23 本設定し、それぞれ地山を確認するまで掘り下げた。

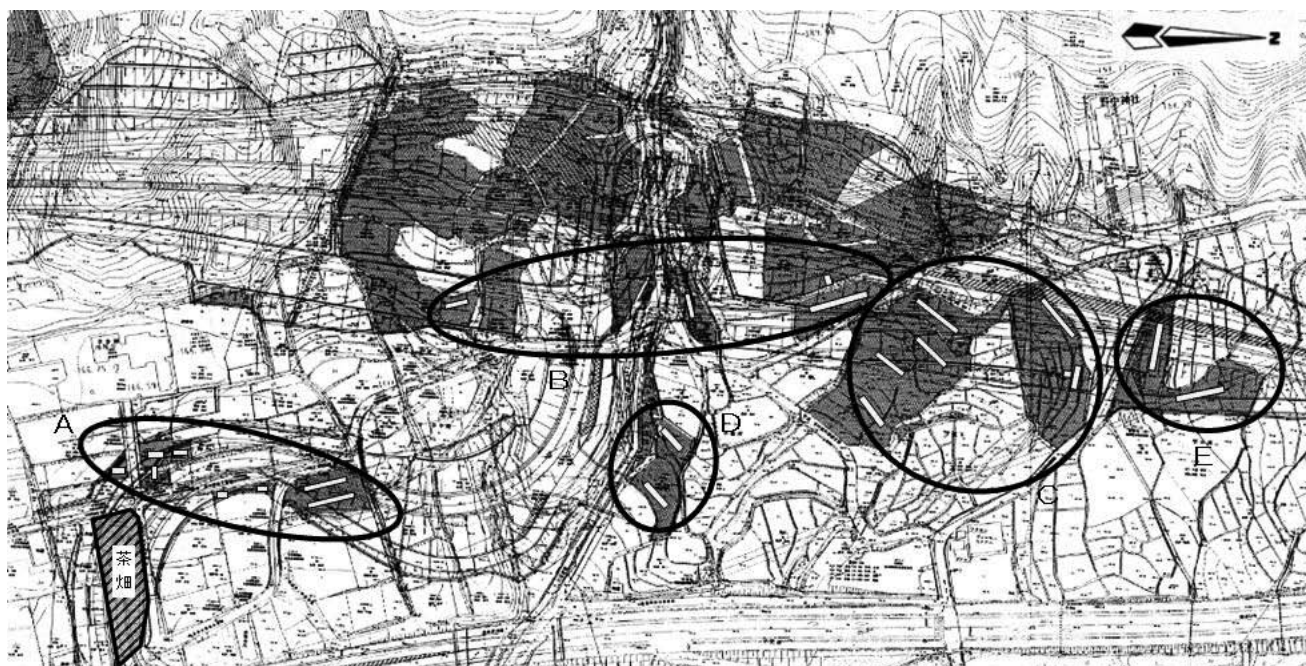
調査地点の南側にあたる畑地・荒地部分（A 地点）では、耕作土の下層に褐色土、礫を多く含む黒褐色土、褐色土が堆積し、その下層が黄褐色粘土の地山になった。調査地点中央～西側の荒地・山林部分（B 地点）は、耕作土の下層が黄褐色粘土の地山であった。調査地点中央の水田部分（D 地点）は、耕作土の下層が褐色粘土の地山であった。調査地点中央～北側の水田・荒地部分（C 地点）は、耕作土の下層が青灰色・褐色・黄褐色粘土の地山となる。調査地点の北側にあたる水田部分（E 地点）は、耕作土の下層が褐色・青灰色粘土の地山となる。

いずれの地点においても遺構・遺物は発見されなかったことから、工事に着手しても支障はない。

なお、今回は茶の木が残っていたために調査ができなかった調査地点南側の茶畑部分については、改めて試掘調査を実施する必要がある。



第 1 図 中部自動車横断道（南部インターチェンジ）建設事業位置図



第 2 図 試掘トレンチ配置図

5 燃料電池研究開発関連事業 試掘《八幡神社遺跡》

所在地	甲府市宮前町 6-43 地内	調査期間	平成 20 年 5 月 8 日～12 日
担当者	田口明子・正木季洋	調査面積	90m ²

調査経緯及び事業内容と結果

試掘調査対象地内の建物・有用樹木を避けて、長さ約 3～14 m、幅約 1 m のトレンチを計 13 本設定し、重機による掘削、人力による平面及び断面精査・観察・記録を行った。

土層は調査区中央部を南北に走る道路の東側では、表土層下にしまりが極めて強く角礫を多量に含む黄褐色土の地山層が堆積しているが、道路に面した 1 号トレンチ西側では表土下に縄文時代を主体とする遺物包含層が堆積している。

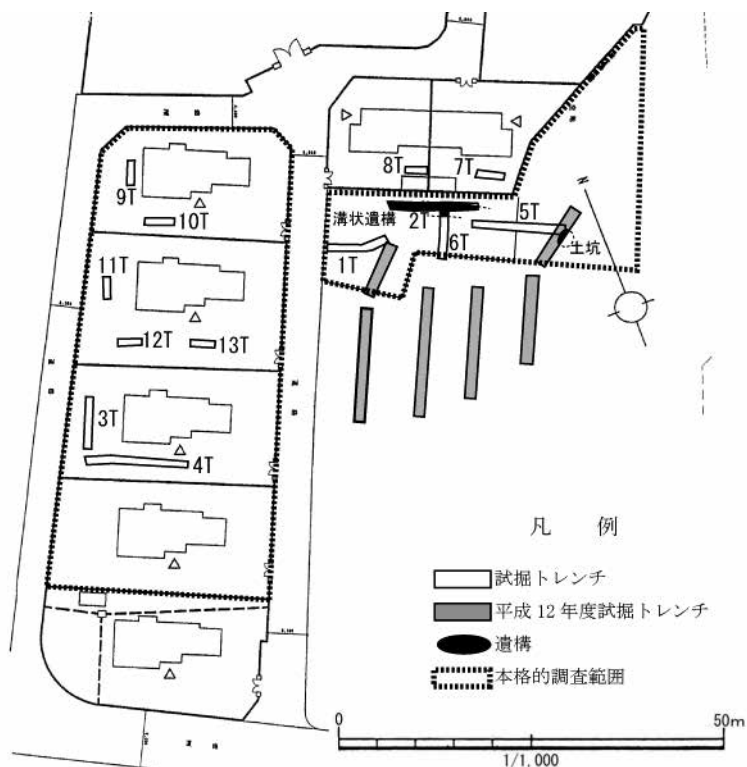
道路西側の部分では、ほとんどの地点で造成による削平や盛土が行われているが、基本的には表土層・黒褐色土層（遺物包含層）・暗褐色土層・黄褐色土層（地山層）の順に堆積する。

遺構は東側に設定した 2・6 号トレンチ表土層下において、溝状遺構を 1 条確認した。溝状遺構内からは縄文時代の土器片や石器、平安時代の土師器片が出土している。遺物は 3・13 号トレンチを除いたトレンチから縄文時代の土器片・石器、平安時代の土師器片、近代の陶磁器片・金属製品が出土している。特に、1 号トレンチ西側、4 号トレンチ西側、9 号トレンチでは縄文時代を主体とする遺物が多く出土する遺物包含層が確認されており、調査区中央部を南北に走る道路付近から西側の範囲に遺物包含層が残っているものと考えられる。

以上の結果により、遺物包含層および溝状遺構が確認された範囲と平成 12 年度試掘調査において土坑が検出された地点を含めた道路東側の約 500m²の範囲と、遺物包含層が残ると考えられる道路西側部分の約 2200m²の本格的調査が必要となり、平成 20 年 7 月 1 日から 9 月 30 日までの 62 日間にかけて本格的調査を行った。



第 1 図 試掘調査 位置図



第 2 図 試掘トレンチ配置図



2号トレンチ溝状遺構

6 県庁舎耐震化等事業 試掘《甲府城跡》

所在地	甲府市丸の内1丁目地内	調査期間	平成20年6月14日～22日
担当者	野代幸和・長田隆志	調査面積	52.5㎡

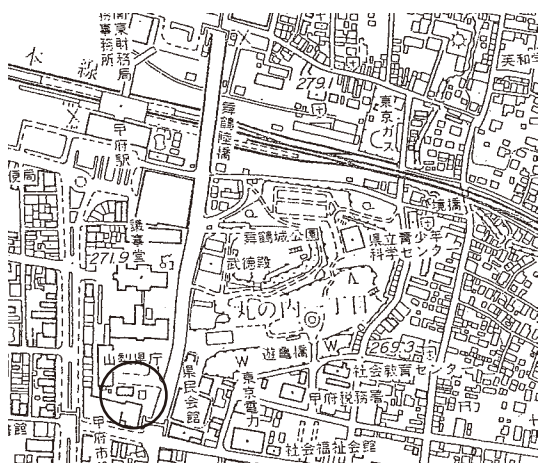
調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、県庁舎耐震化等事業に先立ち、総務部管財課と学術文化財課との協議結果に基づき、同課から試掘・確認調査の依頼を受け、当センターで実施した。協議内容については、既存建物の影響が無い南別館東側駐車場ならびに本館南側駐輪場部分において調査を試みることを確認した。当該地域は甲府城築屋曲輪内に位置し、大手（追手）門関連石垣、堀、土塁などの存在が想定されており、事前に先行する形で実施した地中レーダー探査においてもその痕跡が認められた。また昨年度の水道管敷設工事において道路敷部分でも大手門に由来する遺構が発見されており、その存在が十分に考えられる地点であった。よって、今回の調査で基礎的データを把握し、今後の庁舎整備の基本計画に盛り込むことを目的に試掘確認調査で対応することとなった。

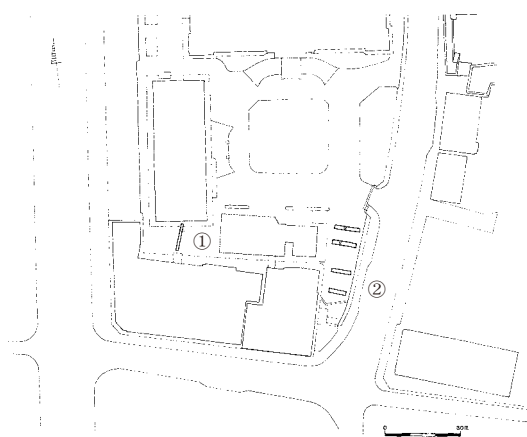
本館南側駐輪場部分（第3図）の調査では、幅1.5m×長さ18mのトレンチを設定して実施した。約2mの深度まで掘削して調査を行なったが、コンクリート廃材、電気、ガス等の配管、水分を多く含んだ脆弱な地盤であり、側壁部分が崩落するなど危険な状況が把握された。以下の層についてボーリング杖による調査を行ったが、作業員を入れての調査の継続は不可能と判断されたため掘削は中止した。本地点では、堀の石垣が推定される地点であるが、現地表下約3mまでは攪乱された埋土であり埋蔵文化財の存在は認められなかった。

南別館東側駐車場部分（第4図）の調査では、別紙図（同トレンチ設定図）に示したとおり4本を設定して調査を行った。第1トレンチでは、曲輪造成地盤面の削平が著しく、遺構（造成地盤）の残存状況は悪かった。これは本地点がかつての正門に位置していたためと考えられる。旧地盤面から縄文土器が認められた。第2トレンチでは、旧構内誘導路のコンクリート土間等によって上層部が攪乱されていた。地表下約30cmで土塁を構成する版築地盤が良好な状態で確認された。遺構としては、西側部分で石垣の裏栗石と推定される層が認められ、隣接部分の土壌が乱れていることから、石材が抜き取られた痕跡と考えられる。造成地盤面直下から縄文・平安時代の土器が認められた。第3トレンチ（第6図）では、地表下約20cmで土塁を構成する版築地盤や石垣遺構、瓦溜が確認された。石垣の遺構は根石もしくはアゴ石であり、文禄・慶長年間に帰属する遺構と考えられる。石垣の西側からは改築・廃城時に廃棄されたと考えられる17世紀後半から19世紀前半までに帰属する瓦溜層が認められた。また旧地盤面から中世以前の土坑のプランが確認された。第4トレンチ（第5図）では、地表下5cmで石垣が、また約10cmで裏栗石の充填層が認められた。本地点では石垣を構成するアゴ石と考えられる遺構上に根石が存在し、その上に一石積まれた状態で確認された。石垣西側からは上下二層の瓦溜層が認められ、下層部分の瓦は概ね17世紀後半代に帰属するものであった。

本調査内容は今後の保存活用のための基礎データとして有効なものと判断される。本地点は庁舎整備に必要な



第1図 試掘調査位置図



第2図 試掘トレンチ配置図

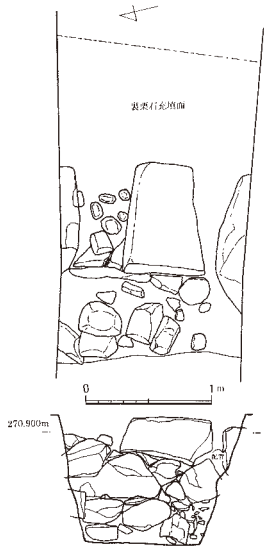
開発範囲予定地に位置していることから、文化財保護の立場からこれら遺構を活用した整備計画の判断材料として貢献するものと思われる。開発が進んでいる地域であったにも係らず、県庁構内として大きな改変を受けずに保護されてきた経過もあり、良好な状態で石垣が保存されてきたことが判明したため、開発行為が行なわれる場合には、詳細な発掘調査が必要である。



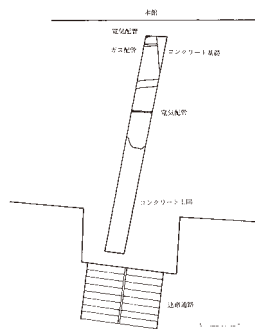
第4トレンチ石垣検出状況



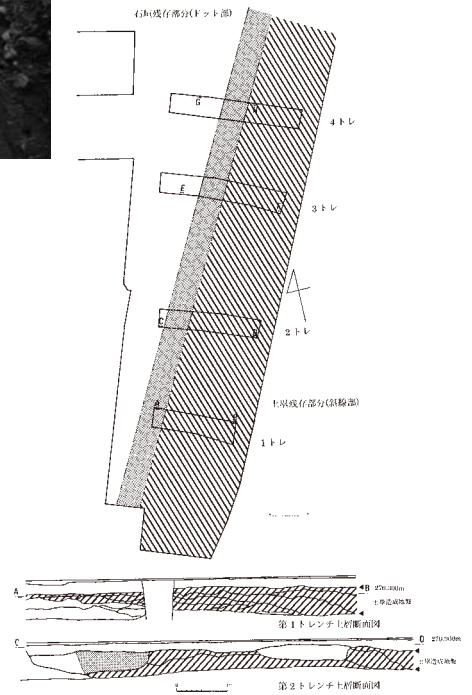
第3トレンチ石垣検出状況



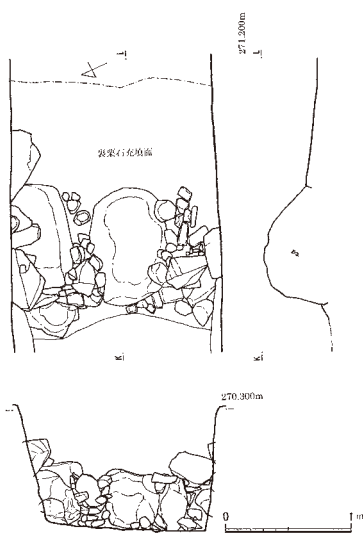
第5図 第4トレンチ石垣平面・立面図



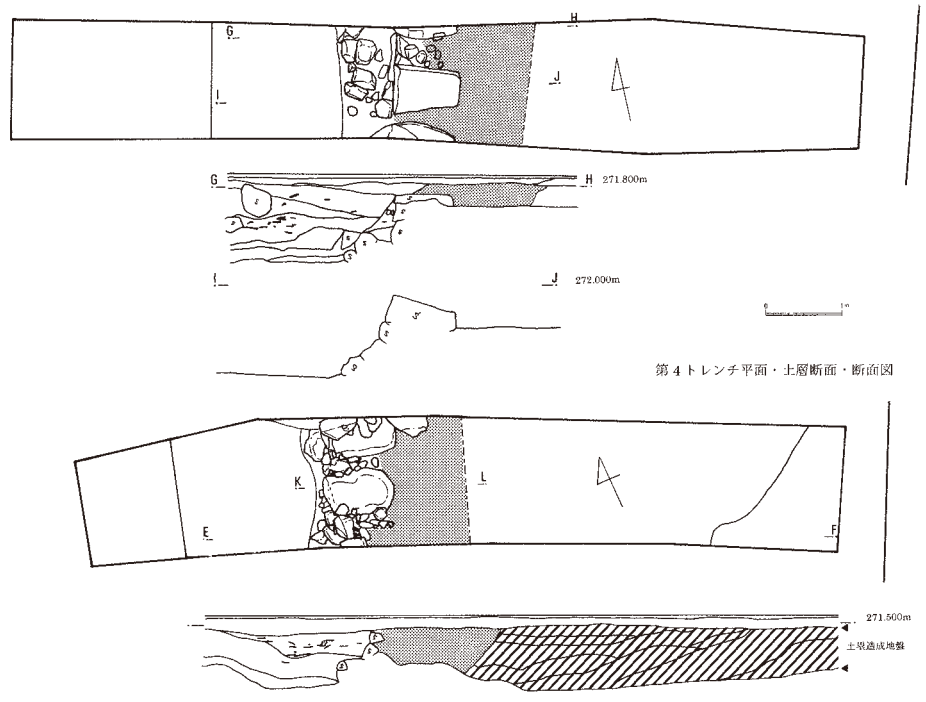
第3図 本館南側トレンチ設定図①



第4図 南別館駐車場東側トレンチ設定位置図②



第6図 第3トレンチ石垣平面・立面・断面図



第4トレンチ平面・土層断面・断面図

第3トレンチ平面・土層断面図

第7図 第3・第4トレンチ平面・土層図

7 山梨リニア実験線（工事用道路）建設事業 試掘《笛吹市御坂町大野寺地内》

所在地	笛吹市御坂町大野寺字原 1839 外地内	調査期間	平成 20 年 5 月 15 日～ 5 月 16 日
担当者	保坂和博・大木丈夫	調査面積	108㎡

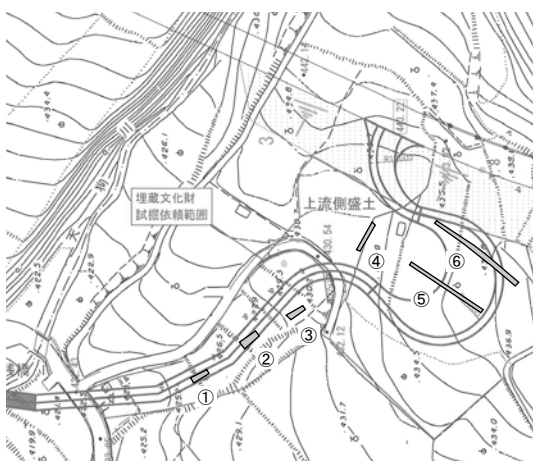
調査経緯及び事業内容と結果

山梨リニア実験線建設に伴い、平成 20 年 4 月 15 日に山梨リニア実験線工事用道路建設予定地の現地踏査を行った。この地点では、工事予定地周辺の畑で土器が拾えたため、鉄道・運輸機構、学術文化財課、埋蔵文化財センターの協議の結果、試掘確認調査を実施することとなった。

試掘調査対象地に、長さ 5～26 m、幅 1～1.5 m のトレンチを 6 本設定した。第 1 号トレンチから第 3 号トレンチでは、傾斜地の中位に設定した第 3 号トレンチから低位の第 1 号トレンチにかけて順次厚さを増す暗赤褐色土層および暗褐色土層を確認した。これらの層から、ビニールや地山にみられる花崗岩が確認されているため、調査対象地外からの客土により整地がなされたものと判断される。その下層は漸移層、地山へと続く。傾斜地の上位に設定した第 4 号トレンチでは、表土層直下で地山層となり、客土はなく、トレンチのほぼ中央に攪乱が確認された。傾斜地最上位に設定した第 5・6 号トレンチでは、第 5 号トレンチで表土の下の層に客土が確認され、これにより平坦に整地され、葡萄畑として使われていた状況が確認された。第 6 号トレンチ内には、現代の 3 カ所の暗渠と 1 カ所の畑管を検出した。すべてのトレンチで遺構・遺物は見つからず、工事を実施するのに当たり、支障はないものと判断される。



第 1 図 山梨リニア実験線（工事用道路）建設事業位置図



第 2 図 試掘トレンチ配置図



2号トレンチ土層推積状況



5号トレンチ土層推積状況

8 平等川河川(甲府市上阿原・七沢地内) 改修事業 試掘《堤防遺跡推定地:七沢の渡し場》

所在地	甲府市上阿原字整理地 96-2 外地内	調査期間	平成 20 年 5 月 21 日～ 22 日、8 月 27 日
担当者	保坂和博・大木丈夫	調査面積	59m ²

調査経緯及び事業内容と結果

平等川河川改修事業に伴い、平成 20 年 1 月 28 日・29 日に今回の対象地の下流域で試掘調査を実施した。その時の調査では、遺構・遺物ともに確認されなかった。前回の調査で確認されなかった旧堤防や七沢の渡しの範囲を把握するため、平成 20 年 5 月 21 日・22 日に試掘確認調査を行った。

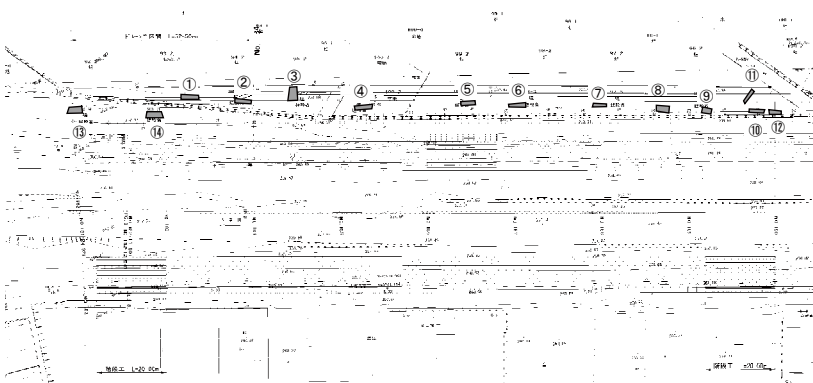
調査では、長さ 3～5 m、幅 1～1.5 m のトレンチを 12 本設定した。ほぼすべてのトレンチで、同じ土層が確認された。表土の下の 2 層目は、暗オリーブ灰色砂質土層であり、客土であった。3 層目は、緑黒色シルト層、しまりがなく崩れやすい層であり、湧水が確認された。4 層目は、暗オリーブ灰色の粘質土層で、5 層目は、オリーブ黒色シルト層であり、4 層目と 5 層目の間から湧水が多量にあった。6 層目は、しまりのないオリーブ黒色粘性のある土層であった。7 層目は、暗緑灰色の砂質土で、湧水が確認された。すべてのトレンチにおいて、遺物、遺構などの掘り込み、堤防などの人為的な構築物の跡は確認されなかった。

5 月 21 日・22 日に上物があり試掘調査できなかった畑の箇所について、8 月 27 日に試掘確認調査を行い、長さ約 5 m、幅 2 m の 2 本のトレンチを設定した。両トレンチとも同じ土層が確認された。さらに、前回 5 月の調査時とも土層は同様であった。

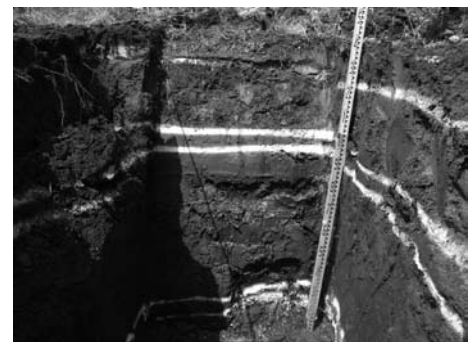
この試掘調査の結果、①客土層以外は河川の水平堆積と考えられること、②遺構・遺物ともに確認されておらず、七沢の渡し等を含め、遺跡はないと考えられる。よって、工事を実施するに当たり、支障はないものと判断される。



第 1 図 平等川河川(甲府市上阿原・七沢地区) 改修事業位置図



第 2 図 試掘トレンチ配置図



7号トレンチ土層推積状況

9 中部横断自動車道（南部インターチェンジ）建設事業 試掘《寺前遺跡》

所在地	南巨摩郡南部町中野字清水原 4908-2 外地内	調査期間	平成 20 年 6 月 16 日～ 20 日
担当者	保坂和博・大木丈夫	調査面積	365m ²

調査経緯及び事業内容と結果

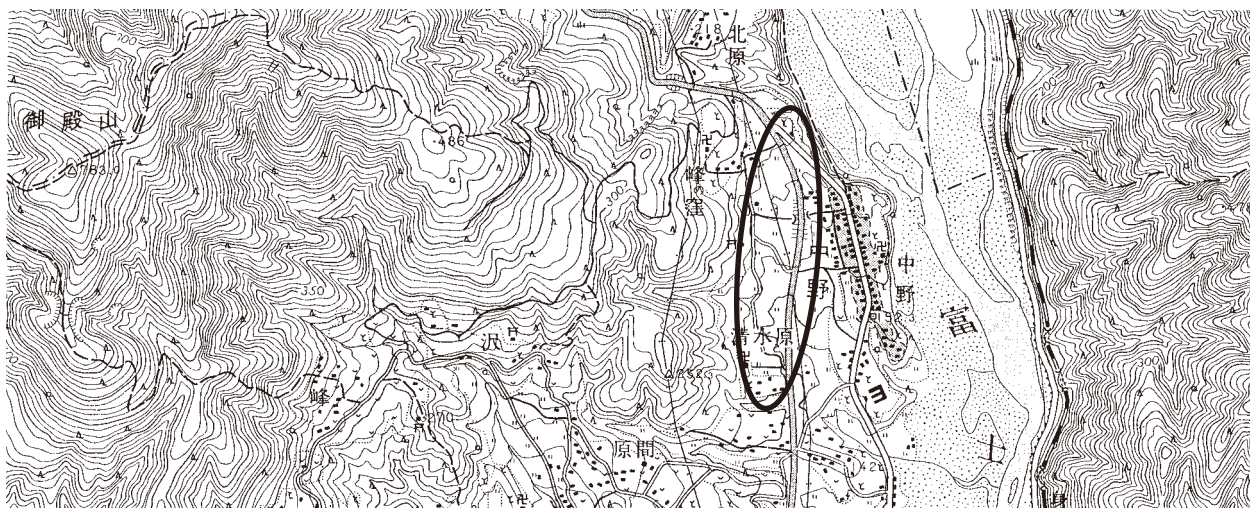
中部横断自動車道南部 I C 建設に伴い平成 20 年 5 月 2 日に現地踏査を行い、試掘調査対象地を決定し、6 月 16 日～ 20 日に遺跡の有無、周知の埋蔵文化財包蔵地においては、範囲、性格、内容等の概要を把握するため試掘調査をした。試掘調査対象地に、長さ 5～50 m、幅 1～1.5 m のトレンチを 20 本設定した。

第 1 号トレンチは、表土、暗オリーブ砂礫層、地山の順、第 2 号トレンチは、表土、褐色粘質土の順、第 3 号トレンチは表土、黒褐色粘質土、褐色粘質土の順で堆積していた。また、第 1～第 3 号トレンチでは、遺構・遺物ともに確認されていない（第 2 図参照）。

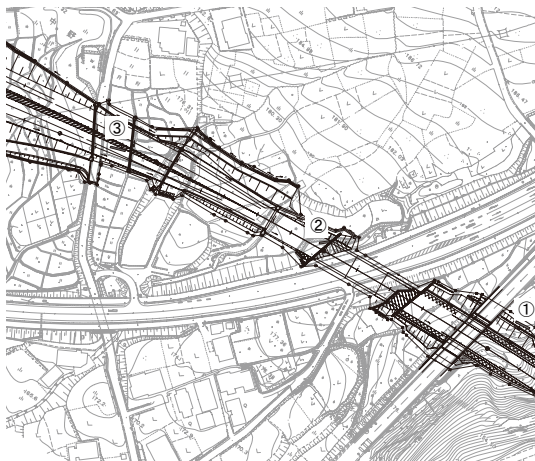
第 4 号トレンチは表土の直下約 180cm が埋土で、その下の土層堆積は、灰オリーブ粘質土層、地山層であった。第 5 号トレンチも表土の直下約 100cm が埋土で、それ以下の土層は第 4 号トレンチと同じであった。第 6 号トレンチは、表土の直下が地山層であった。第 7 号トレンチは、表土の下約 50cm が埋土で、埋土の直下が地山層であった。第 4～7 号トレンチでも遺構・遺物共に確認されなかった（第 3 図参照）。

試掘調査の結果、寺前遺跡が発見された。第 8～第 16 号トレンチの土層は、第 13 号トレンチ以外、表土、黒褐色土層、暗褐色土層、地山層の順で堆積していた。第 13 号トレンチは、表土、暗褐色土層、褐色土層、地山層の順で堆積していた。また、第 8～14 号トレンチの地点では、遺構・遺物が確認されている。遺構確認面は、3 層目の褐色土層の上面である。第 11・14 号トレンチでは、それぞれ竪穴 1 基、土坑 1 基ずつ検出している。第 10・11・13 号トレンチにかけて溝状遺構を 1 条確認した。第 11・13 号トレンチでは、前記の溝状遺構の他にそれぞれもう 1 つ溝状遺構を検出している。第 12 号トレンチでも溝状遺構を 1 条確認している。ほかにピット 5 基も検出されている。第 14 号トレンチでは、縄文土器が出土している。よって、第 8～14 号トレンチの地点は、工事着手前に本調査をする必要がある。第 15・16 号トレンチは、土層の堆積状況は、第 8～14 号トレンチとほぼ同様であったが、遺構・遺物ともに確認されていない（第 5 図参照）。

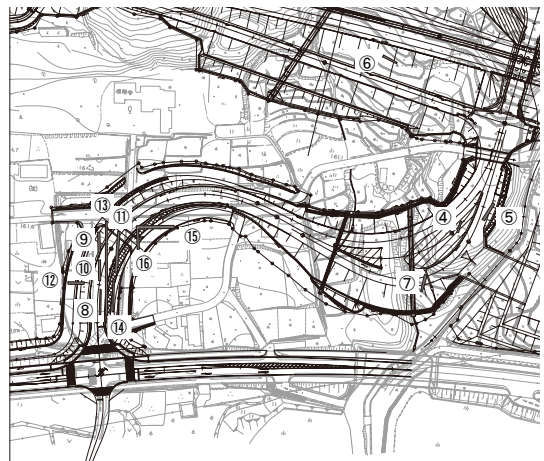
第 17～20 号トレンチは周知の埋蔵文化財包蔵地である清水原遺跡の範囲内に設定した。第 17 号トレンチの土層堆積は、表土、暗褐色土、地山の順であった。第 18～20 号トレンチは、表土の直下が地山層であった。この地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である清水原遺跡であるが、表土の直下が地山であり、遺構・遺物ともに確認されなかった。第 1～7、15～20 号トレンチの地点は、工事を実施するに当たり、支障はないものと判断される（第 4 図参照）。



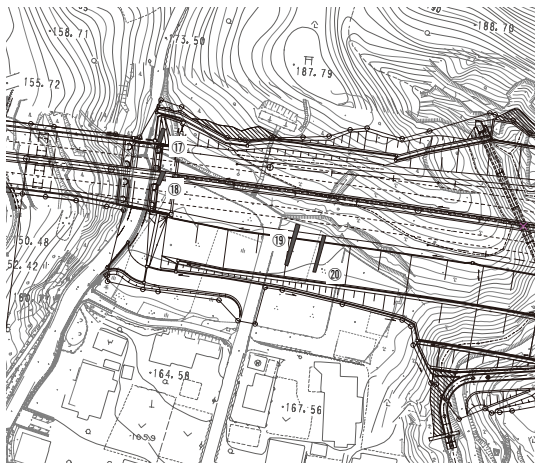
第 1 図 中部横断自動車道（南部インターチェンジ）建設事業位置図



第2図 試掘トレンチ配置図



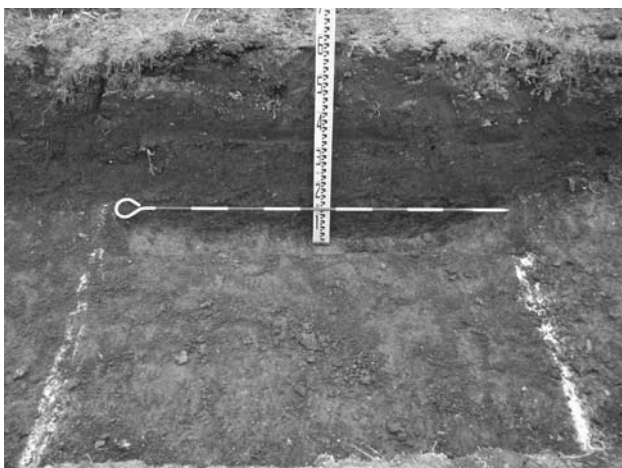
第3図 試掘トレンチ配置図



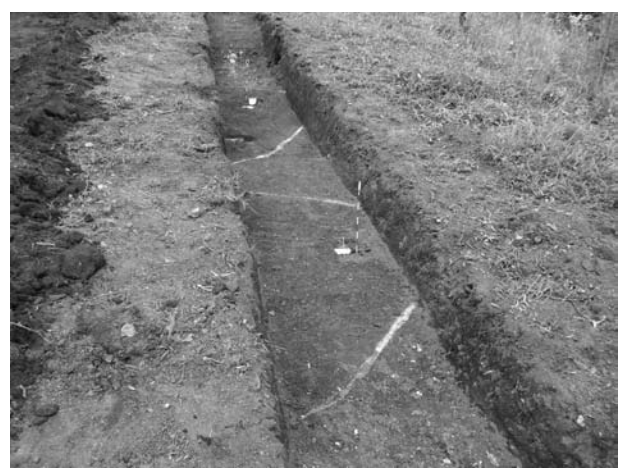
第4図 試掘トレンチ配置図



第5図 寺前遺跡範囲図



1号溝検出状況



14号トレンチ遺構検出状況

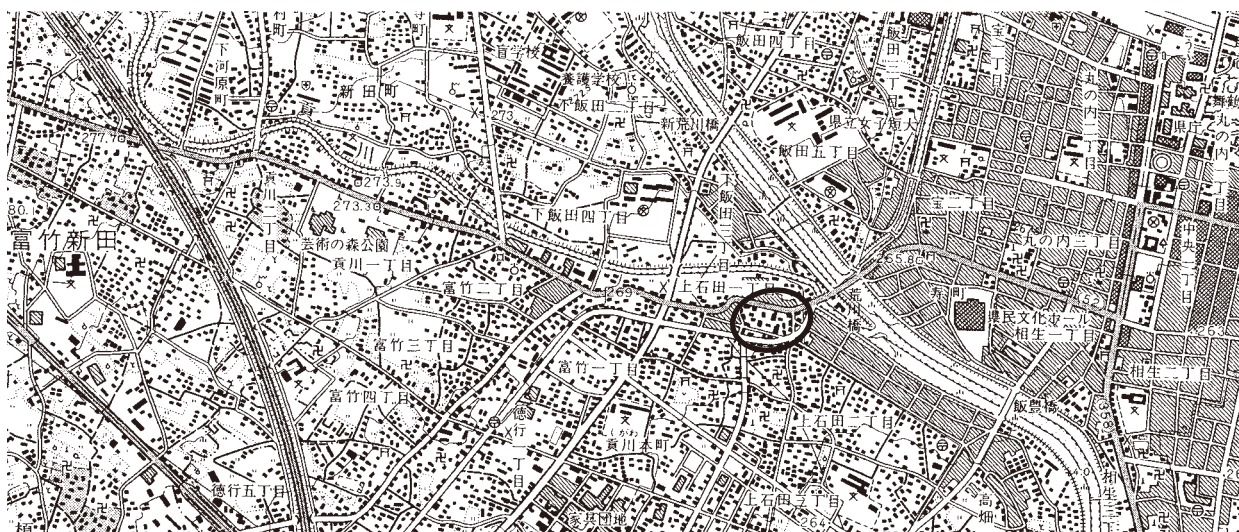
10 一般国道 52 号改良事業 試掘《甲府市上石田地内》

所在地	甲府市上石田 2 丁目 835-1 外地内	調査期間	平成 20 年 6 月 23 日～ 25 日
担当者	保坂和博・大木丈夫	調査面積	177㎡

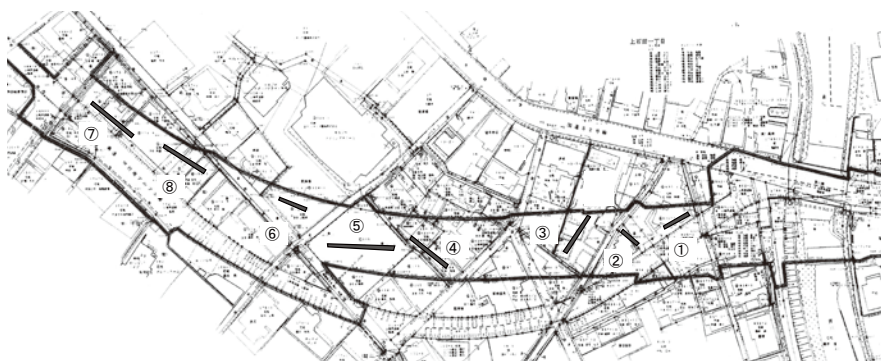
調査経緯及び事業内容と結果

一般国道 52 号改良事業に伴い遺跡の有無を確認する試掘調査を、平成 20 年 6 月 23 日～ 25 日に実施した。長さ 7～24 m、幅 1～1.5 m のトレンチを 8 本設定した。

第 1 号トレンチは表土下から約 60cm が埋土、その下層は川の流れによる自然堆積層で、砂層とシルト層の互層であった。第 2 号トレンチは、埋土と自然堆積層の境まで掘り下げた。第 3 号トレンチは、表土から約 20cm が埋土、その下層は自然堆積層で、上層からシルト層、粘質土層、シルト層、粘質土層の順で、埋土から約 70cm 下に砂礫層が確認された。第 4 号トレンチは、表土が約 30cm で、表土の下層は、自然堆積層で上層から粘質土層、砂質土、粘質土、砂礫層の順で堆積していた。第 5 号トレンチの表土は砂質土で、その下層は自然堆積層で、粘質土層、砂礫層の順で堆積していた。第 6 号トレンチは、建物の基礎が埋まっていた攪乱が確認された。第 7 号トレンチは、表土の下層は自然堆積層で、粘質土、砂質土、シルト層、砂質土、シルト層、砂礫層の順で堆積していた。第 8 号トレンチは、表土の下層に約 30cm の厚さの攪乱層が確認された。攪乱層の下層は、粘質土、砂質土、砂礫層の順で堆積していた。近世、近代の陶磁器が出土しているが、これらは、川に流れにより運ばれてきたか、建物建設時に整地した際に、埋まったと考えられる。また、どのトレンチからも遺構は確認されていない。よって、今回の工事対象地には遺跡はないと考えられ、工事を実施するに当たり、支障がないものと判断される。



第 1 図 一般国道 52 号（上石田）改良事業位置図



第 2 図 試掘トレンチ配置図



5 号トレンチ土層推積状況

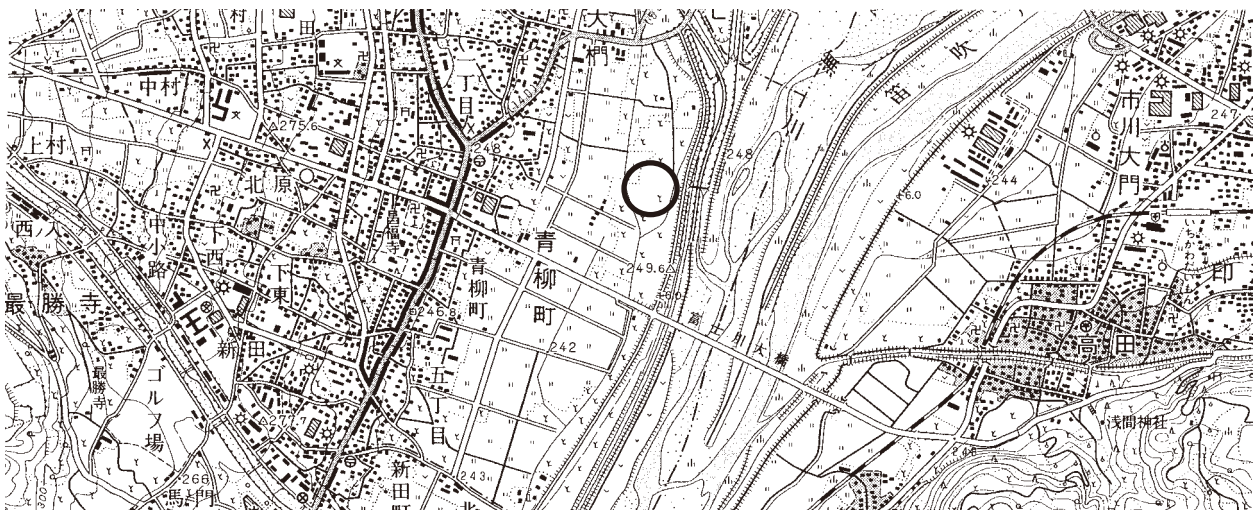
11 中部横断自動車道（増穂インターチェンジ）建設事業 試掘《増穂町大柵地内》

所在地	南巨摩郡増穂町大字大柵 777-1 外地内	調査期間	平成 20 年 8 月 11 日～12 日
担当者	保坂和博・大木丈夫	調査面積	180㎡

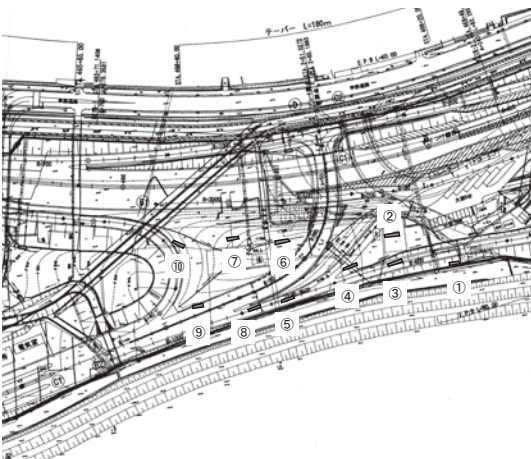
調査経緯及び事業内容と結果

中部横断自動車道増穂インターチェンジ建設に伴い、埋蔵文化財の有無を確認するため、試掘確認調査を平成 20 年 8 月 11 日・12 日に行った。長さ 6～10 m、幅 1.5～2 m のトレンチを 10 本設定した。

各トレンチの基本層序は、①にぶい黄褐色砂質土（表土）、②灰黄褐色シルト質土、③灰オリーブ色シルト質土、④灰オリーブ色砂利層、⑤灰オリーブ色シルト質土、⑥オリーブ褐色粘質土、⑦オリーブ褐色シルト質土、⑧暗オリーブ褐色粘質土、⑨オリーブ褐色粘質土、⑩暗緑灰色シルト質土、⑪暗オリーブ灰色粘質土、⑫暗緑灰色シルト質土、⑬暗オリーブ灰色粘質土、⑭暗オリーブ灰色粘質土であった。ここから、この地区は、富士川の氾濫原であったことがわかる。⑥層（地表から約 120cm）と⑧層（地表から約 200cm）は、近世から近代の水田の床土と考えられる。すでに、試掘調査区域付近にある町屋口遺跡、藤田池遺跡で当該時期の水田跡の調査がされており、さらに今回の試掘調査の結果、検出した水田跡は近世以後のものであり、本地域における文化財保護の観点（山梨県教育委員会埋蔵文化財事務取扱要項）から保護措置の必要はなく、工事を実施するに当たり支障はないと判断される。遺物については、いずれのトレンチからも発見されていない。



第 1 図 中部横断自動車道（増穂インターチェンジ）建設事業位置図



第 2 図 試掘トレンチ配置図



1号トレンチ土層推積状況



2号トレンチ土層推積状況

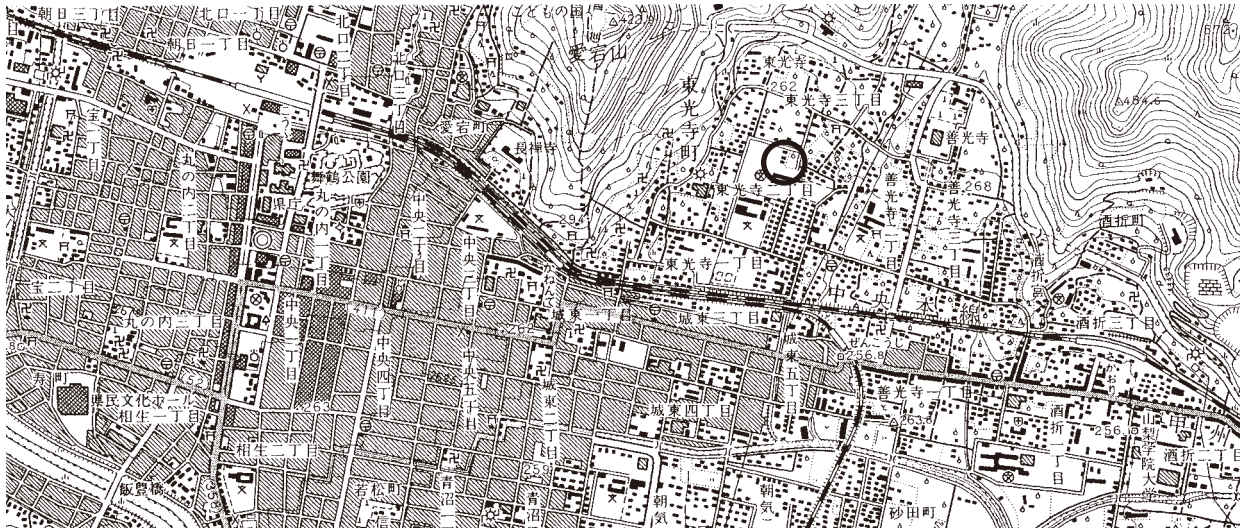
12 かえで支援学校車庫棟新築事業 試掘《甲府市東光寺地内》

所在地	甲府市東光寺 2-25-1-1 外地内	調査期間	平成 20 年 9 月 1 日
担当者	保坂和博・大木丈夫	調査面積	62m ²

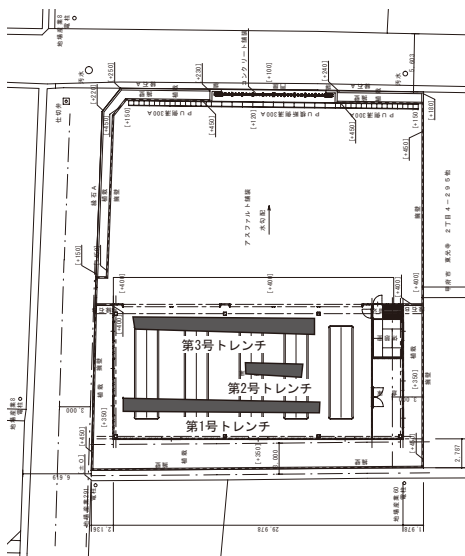
調査経緯及び事業内容と結果

平成 20 年 4 月 9 日にかえで支援学校新築・増築工事に伴い、学校施設課、学術文化財課、埋文センターの三者協議が行われ、車庫棟新築工事が実施される場所においては埋蔵文化財の有無確認調査が必要と判断された。そのため、9 月 1 日に試掘確認調査を行った。

各トレンチの基本層序は次のとおりである。1 層は表土で黒色粘質土層、2 層も黒色粘質土層で礫の直径 10～20cm 大多量に混入していた。3 層は青黒色粘質土層、4 層はオリーブ褐色粘質土層、5 層は黒色粘質土層、6 層はオリーブ黒色粘質土層、7 層は黒色粘質土層、8 層はオリーブ黒色粘質土層、9 層は黒褐色粘質土層であった。1～4 層まではビニール等が混入している客土された層である。5 層以下は自然堆積層で、ヨシなどの植物繊維が多量に含まれていることから、湿地帯を形成していたと考えられる。また、遺物としては、平安時代の土器等が表採でき、客土の層から中近世の焙烙が出土しているが、両者とも他の土地から混入したものである。遺構については、いずれのトレンチでも確認されていない。よって、工事を実施するに当たり支障がないと判断される。



第 1 図 かえで支援学校車庫棟建築事業位置図



第 2 図 試掘トレンチ配置図



1 号トレンチ土層推積状況



2 号トレンチ土層推積状況



3 号トレンチ土層推積状況

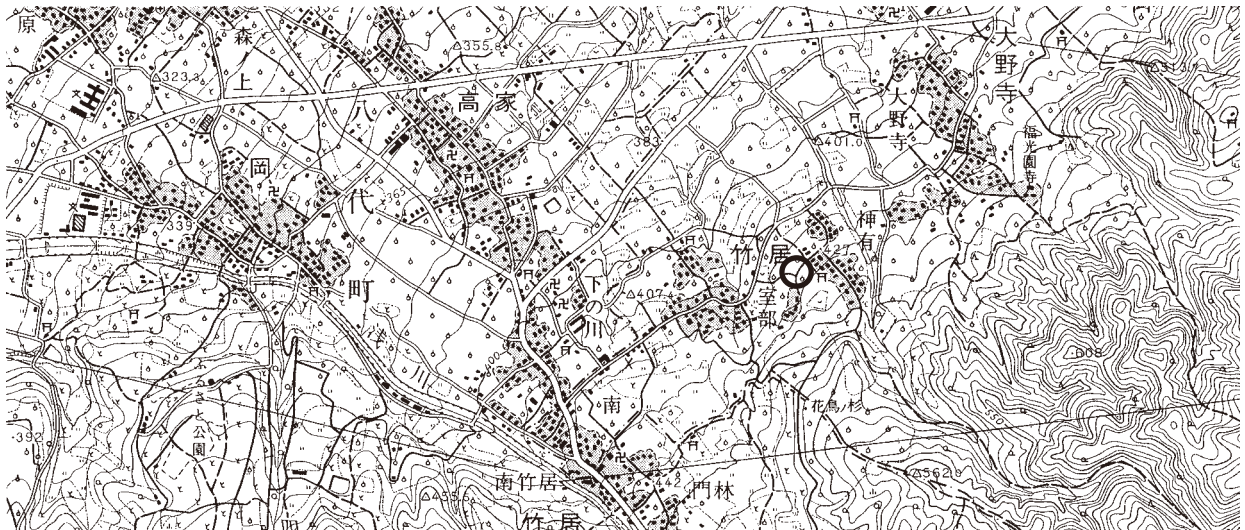
13 山梨リニア実験線建設事業 試掘《笛吹市御坂町竹居地内》

所在地	笛吹市御坂町竹居 4781 地内	調査期間	平成 20 年 9 月 8 日～ 9 日
担当者	保坂和博・大木丈夫	調査面積	58m ²

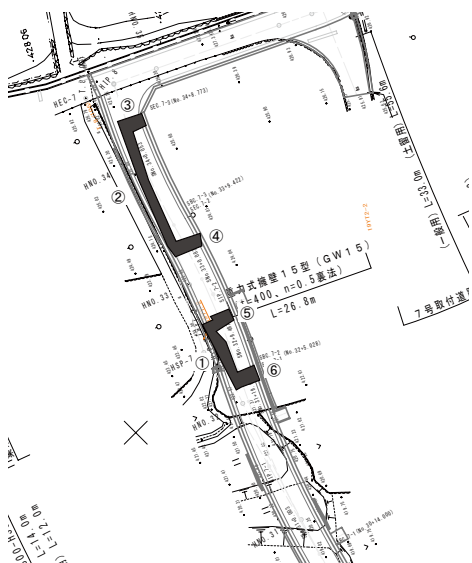
調査経緯及び事業内容と結果

山梨リニア実験線工事用道路建設に伴い、平成 20 年 8 月 15 日に県企画部リニア交通課と学術文化財課と埋蔵文化財センターで現地協議が行われた。当地点は旧地形が残り、遺跡が存在する可能性が高いと判断されたため、遺跡の有無の確認調査をすることになった。

各トレンチの基本層序は次のとおりである。表土（耕作土）、黒褐色土層、暗褐色土層、黒褐色土層、黄色褐色土層（地山）の順で堆積していた。調査対象地区の土層は、自然堆積層であった。地山層の上面の黒褐色土層からは縄文土器や平安時代の土器が出土している。土層の堆積状況からすると流れ込みと考えられる。また、遺構も確認されておらず、遺跡はないものと考えられる。よって、工事を実施するに当たり、支障がないと判断される。



第 1 図 山梨リニア実験線（工事用道路）建設事業位置図



第 2 図 試掘トレンチ配置図



1号トレンチ土層推積状況



5号トレンチ土層推積状況



6号トレンチ土層推積状況

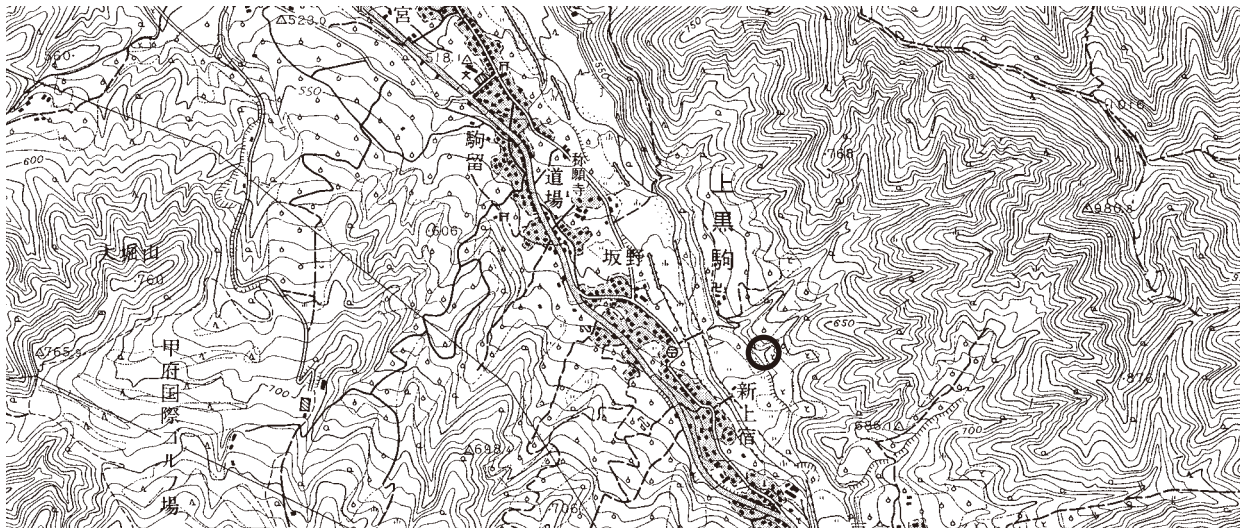
14 山梨リニア実験線建設事業 試掘《笛吹市御坂町上黒駒地内》

所在地	笛吹市御坂町上黒駒 6177 外地内	調査期間	平成 20 年 9 月 16 日～ 17 日
担当者	保坂和博・大木丈夫	調査面積	84m ²

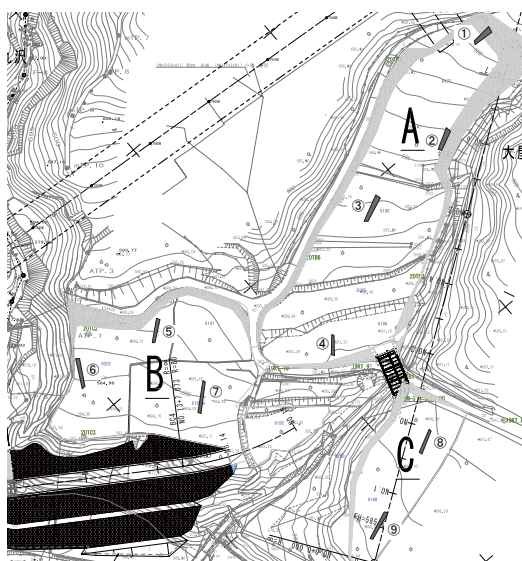
調査経緯及び事業内容と結果

平成 20 年 4 月 15 日に山梨リニア実験線建設に伴う工事用道路・作業ヤード予定地の現地踏査を実施した。その結果、当地点は南向きの緩斜面であり、遺跡の存在が想定されることから、埋蔵文化財の有無確認調査が必要と判断された。

A 地区には第 1～4 号トレンチの 4 本のトレンチを設定した。表土の直下からは旧沢地形を埋める砂を多く含む自然堆積層が検出された。B 地区には第 5～7 号トレンチを設定した。この地点の層序は、表土の直下が地山層であった。C 地区には第 8・9 号トレンチを設定した。これらのトレンチの第 1～3 層は埋土であり、埋土の層から遺物が出土している。第 4～9 層は地山層である。すべてのトレンチで遺構は確認されていない。また A・B 地区では遺物は出土していない。C 地区では遺物が出土しているが、埋土の層から出土しているため、遺跡ではないと考えられる。工事を実施するに当たり、支障はないと判断される。



第 1 図 山梨リニア実験線（工事用道路・工事ヤード）建設事業位置図



第 2 図 試掘トレンチ配置図



1 号トレンチ土層推積状況



8 号トレンチ土層推積状況



5 号トレンチ土層推積状況

15 峡東第四総合学科高校建設事業 試掘《石和高校周辺遺跡》

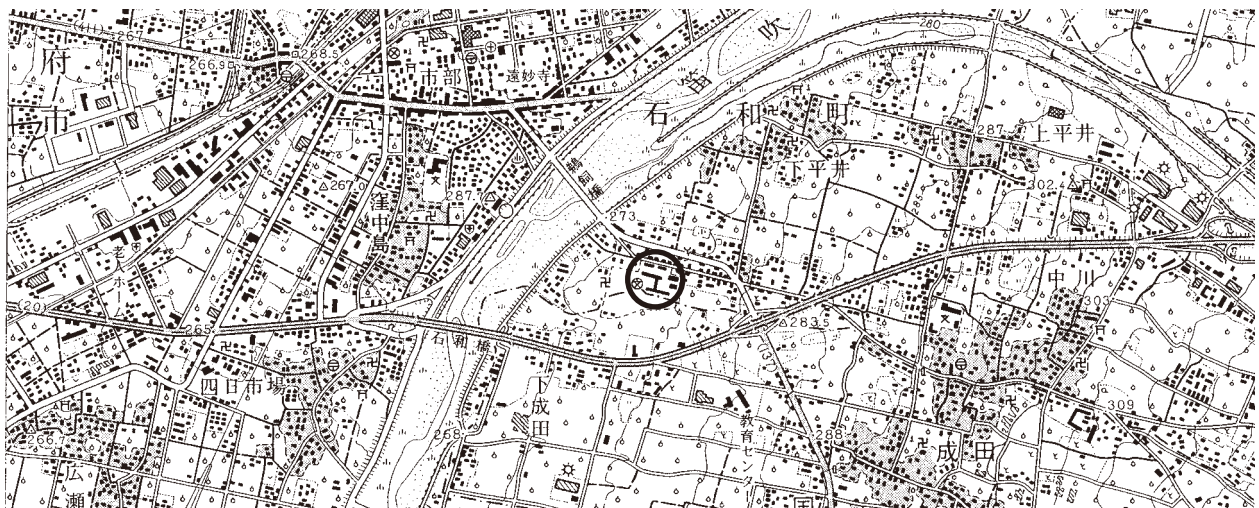
所在地	笛吹市石和町市部3地内	調査期間	平成20年9月24日～25日
担当者	保坂和博・大木丈夫	調査面積	40m ²

調査経緯及び事業内容と結果

峡東第四総合学科高校建設予定箇所が、周知の埋蔵文化財包蔵地である石和高校周辺遺跡の範囲内であるため、遺跡の範囲、性格、内容等の概要を把握することが必要であり、試掘確認調査を実施した。

第1～第3号トレンチは、グラウンドのサッカーコート脇にトレンチを入れた。第1～4層はグラウンドを整備するための整地層である。第5層以下は、粘質土や砂質土などの河川堆積物であった。この地点では、遺構は確認されなかった。また、第2号トレンチから古墳時代の土器が出土しているが、河川による流れ込みと考えられる。よって、工事を実施するに当たり、支障はないと判断される。

第4・5号トレンチは、校舎の間、格技場の隣接地の駐車スペースにトレンチを入れた。第4号トレンチ第1～3層、第5号トレンチ第1～5層は埋土であり、近代の遺物が出土している。第4、5号トレンチともに埋土より下層は自然堆積層となる。第4号トレンチ第6層は、畦畔状の高まりが確認されているため、水田の床土と考えられる。この水田が営まれた時代は不明であるが、近代以前のものと考えられるため、調査が必要となる。しかし、現在校舎が建っており、調査対象面積が狭いため本調査は困難である。よって、現校舎の解体の際に、立会調査をすることが必要である。



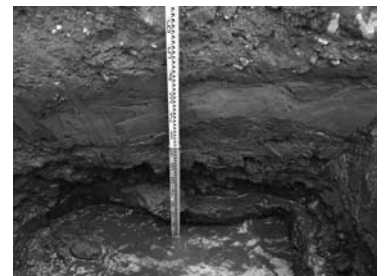
第1図 峡東第四総合学科高校建設事業位置図



第2図 試掘トレンチ配置図



1号トレンチ土層推積状況



4号トレンチ土層推積状況

16 平等川河川（春日居町鎮目地区）改修事業 試掘《大俣遺跡・保雲寺橋遺跡》

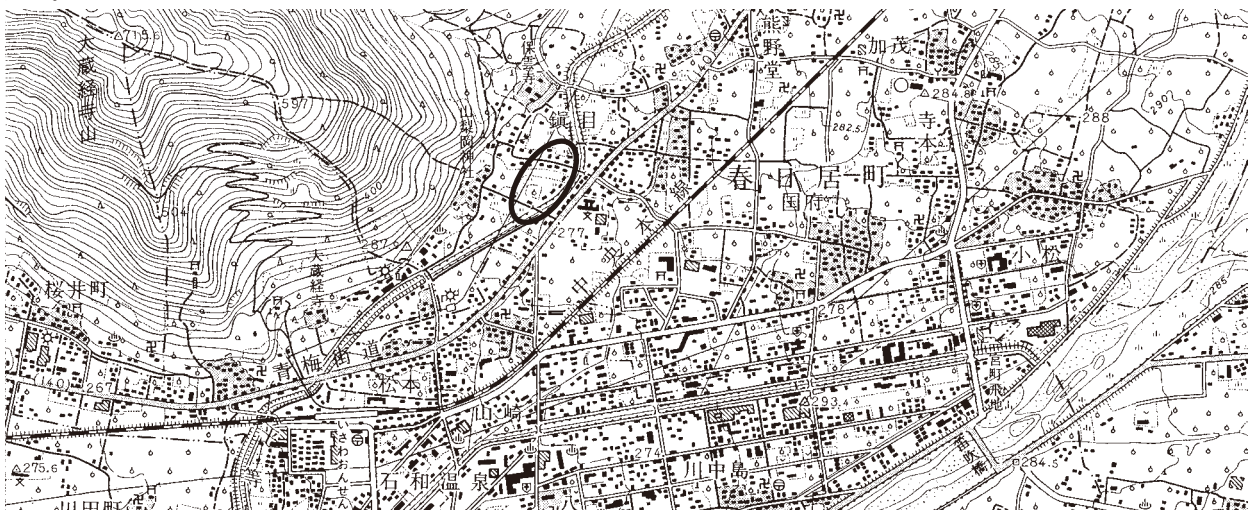
所在地	笛吹市春日居町鎮目 1536-11 外地内	調査期間	平成 20 年 10 月 1 日
担当者	保坂和博・大木丈夫	調査面積	24m ²

調査経緯及び事業内容と結果

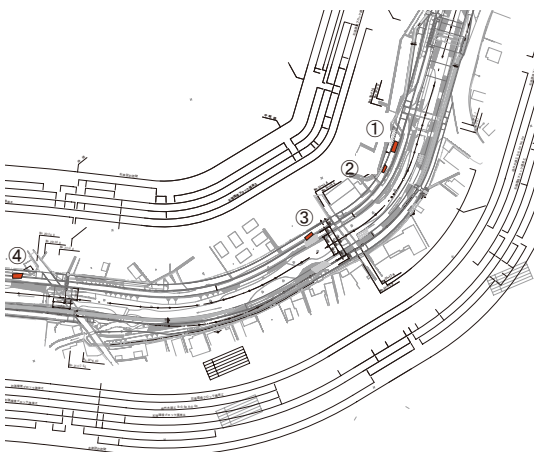
平等川河川改修箇所が、周知の埋蔵文化財包蔵地である大俣遺跡、保雲寺橋遺跡の範囲に当たるので、遺跡の範囲、性格、内容等の概要を把握するための試掘確認調査を実施することになった。

第1・2号トレンチは、周知の遺跡である保雲寺橋遺跡内に設定した。調査対象地の土層は、河川による自然堆積であった。また、このトレンチでは、遺物・遺構ともに確認されていない。よって、この箇所については工事を実施するに当たり、支障はないと判断される。

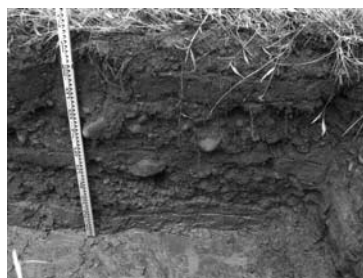
第3・4号トレンチは、周知の遺跡大俣遺跡内に設定した。表土の下に礫層があり、その下層はアスファルトやビニール等が混入している埋土であった。埋土の最下層は表土から約240cmで、その下層は砂地であった。しかし、重機のアームがこの深さ以上掘れなかったため、遺跡の有無を確認できなかった。第4号トレンチを設定した畑では、縄文時代や平安時代の土器片が採集できたが、表土は客土されたものであった。表土の直下の層は、砂質土層でその下層は埋土であった。埋土の下層は河川堆積層であった。表土から約235cmで昭和の水田面が検出された。それより深くは重機のアームが届かないために掘ることができなかった。大俣遺跡の試掘調査対象地は、遺跡があるかどうか確認ができず、さらに調査対象面積が狭いことから、工事立会が必要と判断される。



第1図 平等川河川（春日居町鎮目地区）改修事業位置図



第2図 試掘トレンチ配置図



1号トレンチ土層堆積状況



3号トレンチ土層堆積状況

17 防災ステーション建設事業 試掘《青柳河岸跡》

所在地	南巨摩郡増穂町青柳 1706 外地内	調査期間	平成 20 年 11 月 17 日～ 21 日
担当者	保坂和博・大木丈夫	調査面積	175m ²

調査経緯及び事業内容と結果

防災ステーション建設事業は、富士川において堤防の決壊等の重大災害が発生した場合に、水防活動の拠点として整備（盛土工事等）を行うものである。

事業予定地には、周知の埋蔵文化財包蔵地である青柳河岸跡が所在し、また藤田池遺跡や町屋口遺跡が隣接することから、埋蔵文化財包蔵地の範囲、性格、内容等の概要を把握するため試掘・確認調査を実施した。

これまでに行われた周辺地域での調査としては、青柳河岸跡では、平成 19 年度に本事業に伴う試掘調査、増穂地区改修工事に伴う発掘調査が行われ、本調査では近代以降の土堤状の高まりや石垣などが発見されている。藤田池遺跡では、平成 10 年度および 14 年度に甲西道路建設に伴う発掘調査、平成 20 年度に中部横断自動車道建設に伴う試掘調査が行われ、近世末の水田跡や畠跡をはじめ、現道の下から江戸時代末の「青柳村絵図」に描かれた「馬入本道」が確認されている。町屋口遺跡では、平成 10 年度に甲西道路建設に伴う発掘調査が行われ、近世末以降の水田跡や「馬入本道」などが確認されている。

試掘調査対象地における地理的環境としては、甲府盆地の南西部、釜無川と笛吹川が合流して富士川となる付近で、盆地内でも最も標高の低い（標高約 242 m）沖積地であり、古くから洪水の常襲地帯とともに水田として利用されてきた地域でもある。

今回の試掘調査では、長さ 5～6 m、幅 1.5～3 m のトレンチを 10 本設定し、掘削は重機を用いて実施し、人力による平面・断面の観察を行った。

<第 1～6 号トレンチ>

第 1～6 号トレンチの土層の堆積状況は、砂層やシルト層の互層に粘質土層が挟在する沖積地特有（洪水の影響）の状況が見られ、これらの粘質土層からは、水田跡と考えられる面が確認されている。各トレンチの水田跡検出状況は、第 1・2 号トレンチ：3 面（2,5,7 層目）、第 3 号トレンチ：2 面（4,8 層目）、第 4 号トレンチ：3 面（3,5,8 層目）、第 5 号トレンチ：4 面（4,5,7,9 層目）、第 6 号トレンチ：3 面（5,10,12 層目）であり、近世から近代の水田跡が検出された。遺物は第 2 号トレンチの 9 層から近世（肥前系壺）の磁器片が出土している。

<第 7・8 号トレンチ>

第 7・8 号トレンチは、これまでの調査結果から青柳河岸の入り口へ続く「馬入本道」の存在が想定される現道部分に設定した。両トレンチからは、非常にしまった硬化面（砂利層）が 9 面検出され、これまでの調査結果により近世から近代の青柳河岸へ続く「馬入本道」と考えられる。遺物は、第 7 号トレンチ 20 層（道路 5 面）から近世（肥前系碗）の磁器片が出土している。

<第 9・10 号トレンチ>

第 9・10 号トレンチは、第 1～6 号トレンチと同様、沖積地特有（洪水の影響）の土層堆積状況が見られ、3 面（4,8,10 層）の水田跡と考えられる面が確認されている。両地点では、遺物の検出には到らなかった。

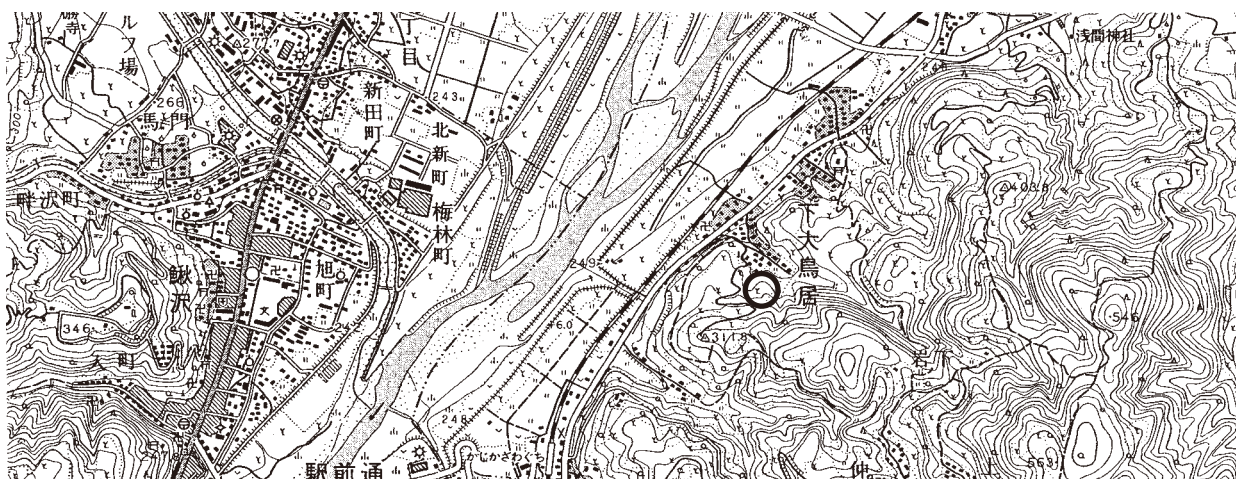
試掘調査の結果、第 1～6 号トレンチおよび第 9,10 号トレンチでは、近世以降の水田跡を検出したが、これまでの町屋口遺跡や藤田池遺跡の発掘調査により、この地域一帯における当該期の水田の広がり把握していることから、本地域における文化財保護の観点（「山梨県教育委員会埋蔵文化財事務取扱要項」）より当該地の保護措置の必要はないものと判断される。また、第 7・8 号トレンチで確認された「馬入本道」については、平板実測による位置図作成と断面実測を行い、道の範囲や内容を把握し、記録写真撮影による記録保存の保護措置の対応を図ったことから、工事を進めても差し支えない旨を報告した。

18 中部横断自動車道（八之尻トンネル）建設事業 試掘《谷津遺跡》

所在地	西八代郡市川三郷町字谷津 1772-1 外地内	調査期間	平成 20 年 12 月 8 日
担当者	保坂和博・大木丈夫	調査面積	26m ²

調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、中部横断自動車道建設にかかる八之尻トンネル工事である。この地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である谷津遺跡に所在することから、埋蔵文化財包蔵地の範囲、性格、内容等の概要を把握するため試掘・確認調査を実施した。今回の試掘調査では、対象地内の緩斜面において長さ約 6～11 m、幅約 1 m のトレンチを 3 本設定し、重機を用いて掘削し、人力による平面・断面の観察を行った。山間部北斜面の旧畑地内に設定した第 1・2 号トレンチの土層堆積状況は、1 層（畑耕作土：にぶい黄褐色土層）、2 層（褐色粘質土層）、3 層（黄褐色粘質土層）、4 層（黄褐色粘質土層）、5 層（黄褐色粘質土層）、6 層（明黄褐色土層）の順に堆積し、2 層目以下は各層位とも水平堆積が見られず、地山のロームブロックを斑状に多量に含んでおり、山伏北斜面に堆積した地崩れ層と考えられる。第 1・2 号トレンチとの比高差 10 m の一段低い北緩斜面の旧畑地内に設定した第 3 号トレンチの土層堆積状況は、1 層（畑耕作土：にぶい黄褐色土層）、2 層（褐色土層）、3 層（黒褐色粘質土層）、4 層（にぶい黄褐色粘質土層）の順に堆積し、2 層目以下は第 1・2 号トレンチ同様に山伏北斜面に堆積した地崩れ層と考えられる。試掘調査の結果、第 1～3 号トレンチの土層堆積状況は、表土下に地崩れ層が確認され、いずれも遺物や遺構は全く確認できず、遺跡は存在しないものと考えられる。よって、工事には支障にはないと判断される。



第 1 図 中部横断自動車道（八之尻トンネル）建設事業位置図



第 2 図 試掘トレンチ配置図



1 号トレンチ土層堆積状況



2 号トレンチ土層堆積状況



3 号トレンチ土層堆積状況

19 中部横断自動車道（増穂インターチェンジ）建設事業 試掘《町屋口遺跡》

所在地	南巨摩郡増穂町字青柳 1148-1 外地内	調査期間	平成 20 年 12 月 8 日～ 9 日、11 日～ 12 日
担当者	笠原みゆき・古郡雅子	調査面積	547.3m ²

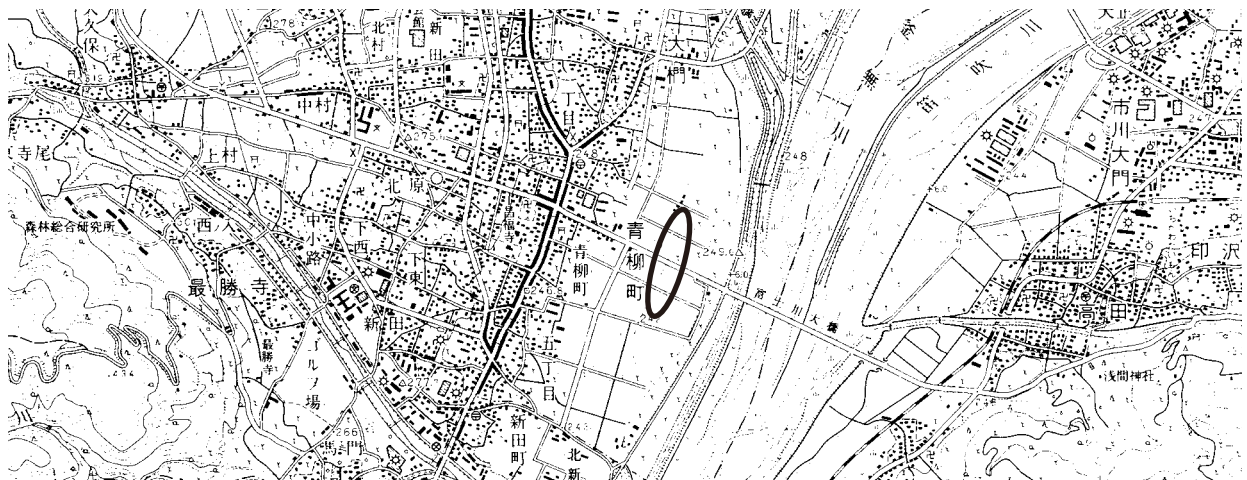
調査経緯及び事業内容と結果

調査地点は、一般国道 52 号バイパスに並行する水田地帯で、富士川大橋につづく国道を南北に挟んで位置している。道路を挟んだ南側を 1 区、道路北側を 2 区とし、1 区には 12 本、2 区には 3 本、合計 15 本のトレンチを設定し調査をおこなった（第 2 図）。

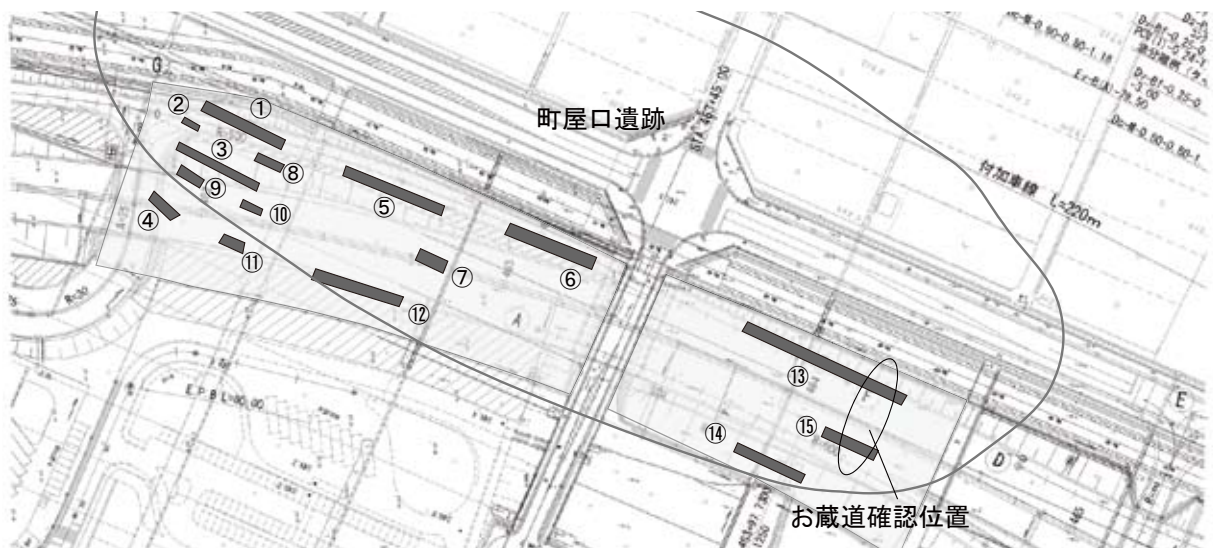
1 区では、一般国道 52 号改築工事に伴う発掘調査において確認された「作場通り道」とその下層で発見された杭列を伴う水路の範囲確認と水田の状態を調査した。12 本設定したトレンチの内、第 3・第 9 トレンチにおいて杭列が確認できた。第 3 トレンチ内の杭列は、青灰色シルト層直上の砂層から確認できるが、掘り込みなどは確認できなかった。遺物は、江戸時代末から明治にかけての磁器が数点発見された。しかし、これらの杭列は、「作場通り道」とは方向が違う状況が確認でき、この杭列の性格について確認する必要があった。そのため、並行する第 9 トレンチを設定したところ、ここでは杭列に向かって、板材と杭が新たに確認された。これは、水田に水を引く取水口のように、板材の両脇は、粘土で固められて畦状になっており、その南側の断面観察では水田面が確認できた。このため、第 3・9 トレンチで確認された杭列は水田に関係するものであり、「作場通り道」との直接的な関係を確認することはできなかった。時期は、出土した少ない遺物から推定して江戸時代末期から明治時代以降のものとする。

2 区では、一般国道 52 号改築工事に伴う発掘調査において確認された「お蔵道」の範囲を確認した。ここでは、3 本のトレンチを設置し、そのうちの第 13・15 トレンチで「お蔵道」が確認できた（第 4・5 図参照）。2 本のトレンチ内で確認された「お蔵道」は、幅 4～4.5 m ほどで、砂利と粘土をレンズ状に突き固めたもので、とても硬く締まっていた。第 13 トレンチからは、道の両脇から杭が発見された。この杭は、トレンチ内では道の幅で 1 本ずつ確認されたが、杭列となるかは不明である。また、第 15 トレンチでも道の南側のみで 3 本の杭を確認できた。道の周辺からの遺物は発見できなかった。

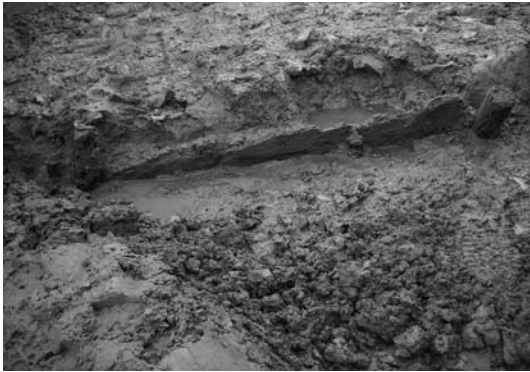
調査の結果、1 区については、作場通り道に関係する直接的な遺構は確認出来ず、発掘調査に結びつける決定的な結果を得ることはできなかった。しかし、2 区については青柳河岸に向かう「お蔵道」が確認されたため、対象面積約 1,800m²の発掘調査が必要であると判断した。



第 1 図 中部横断自動車道（増穂インターチェンジ）建設事業位置図



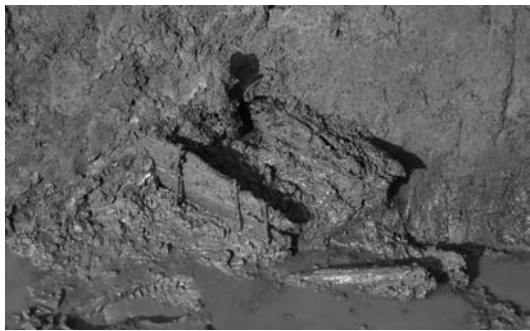
第2図 試掘トレンチ配置図



第3トレンチ 木杭・木板



第3トレンチ 杭検出状況



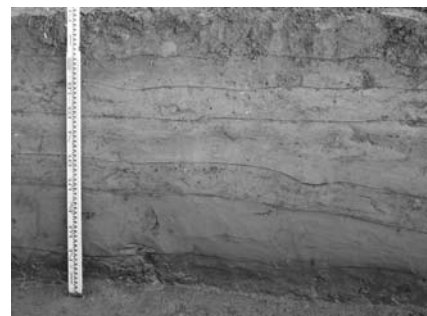
第9トレンチ 取水口検出状況



第13トレンチ お蔵道検出状況



第15トレンチ 木杭(3本)とお蔵道(点線内)



第15トレンチ 土層推積状況

20 中部横断自動車道（南部区間）建設事業 試掘《南部町中野地内》

所在地	南巨摩郡南部町中野 4171 外地内	調査期間	平成 20 年 11 月 18 日～19 日
担当者	山本茂樹・上原健弥	調査面積	64m ²

調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、中部横断自動車道建設に伴い路線予定地内において実施されている試掘調査の一つである。当地点における対応については、国土交通省、県教委学術文化財課、埋蔵文化財センターによる協議の結果、近接地である寺前遺跡での本調査終了後に埋蔵文化財センターによる試掘確認調査が実施されることとなった。

試掘対象地は、慈眼寺の裏手（南西）部分で、山裾から川へ至る斜面のうち平坦部分のおよそ 400m²であった。平坦部は上下に二段あり、寺院に関連する遺構の存在が想定されたため、合計で 4 本のトレンチを設定し約 64 m²を調査した。下段部には、トレンチ 2 本を縦列に設定し、地山層まで掘削した。いずれも 15cm～30cm の表土層を取り除くと、地山の堆積が確認され、遺構や遺物は検出されなかった。

上段の平坦部は、五輪塔や無縁仏 40 体分があった墓域で、2 本のトレンチを縦列に配置し調査した。東側のトレンチでは、15cm ほどで地山を確認した。西側のトレンチでは、5cm ほどの盛土があり、その下層に東側トレンチで確認した表土層が堆積していた。この層の直下は地山であった。両トレンチとも、墓に関する遺構や遺物はみつからなかった。また、周辺に散在する石材の表面を調査したが、墓石等として用いられたと考えられる石材の確認には至らなかった。

工事予定範囲は斜面部が大半であり、トレンチを設定した平坦部分では、遺構や遺物は検出されていない。以上の結果から、当該範囲には遺跡はなく、工事による影響もないと考えられる。



第 1 図 中部横断自動車道（南部区間）建設事業位置図



下段平坦部の調査状況



上段平坦部（墓域）の調査状況



作業状況

21 中部横断自動車道（南部区間）建設事業 試掘《原間遺跡》

所在地	南巨摩郡南部町本郷字原間 309 外地内	調査期間	平成 20 年 11 月 19 日～12 月 2 日
担当者	山本茂樹・上原健弥	調査面積	900㎡

調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、中部横断自動車道建設に伴い路線予定地内において実施されている試掘調査である。当地点における対応については、南部町内の寺前遺跡での本調査終了後、1 慈眼寺裏、2 原間遺跡、3 大神遺跡、の 3 地点での試掘確認調査として埋蔵文化財センターによる調査が実施されることとなった。なお、当地点の位置は慈眼寺裏の項目に記した。また、隣接地である大神遺跡内での掘削位置については、第 2 図に併せて掲載した。

原間遺跡は、船山川の支流である矢沢川と小川に挟まれた南向きの緩傾斜地に位置する。これまでは主に茶畑として利用されてきた土地で、縄文時代中期を主体とした土器片、黒曜石製の石鏃、打製石斧などが多く表採されている。中部横断道建設予定地は、遺跡内の東端近くを南北に縦断する。試掘調査では、調査区を任意に 5 区分し（その内 1 区は大神遺跡に該当）、各調査区内にトレンチ（T）13 本、やテストピット（TP）23 ヶ所を設定した。

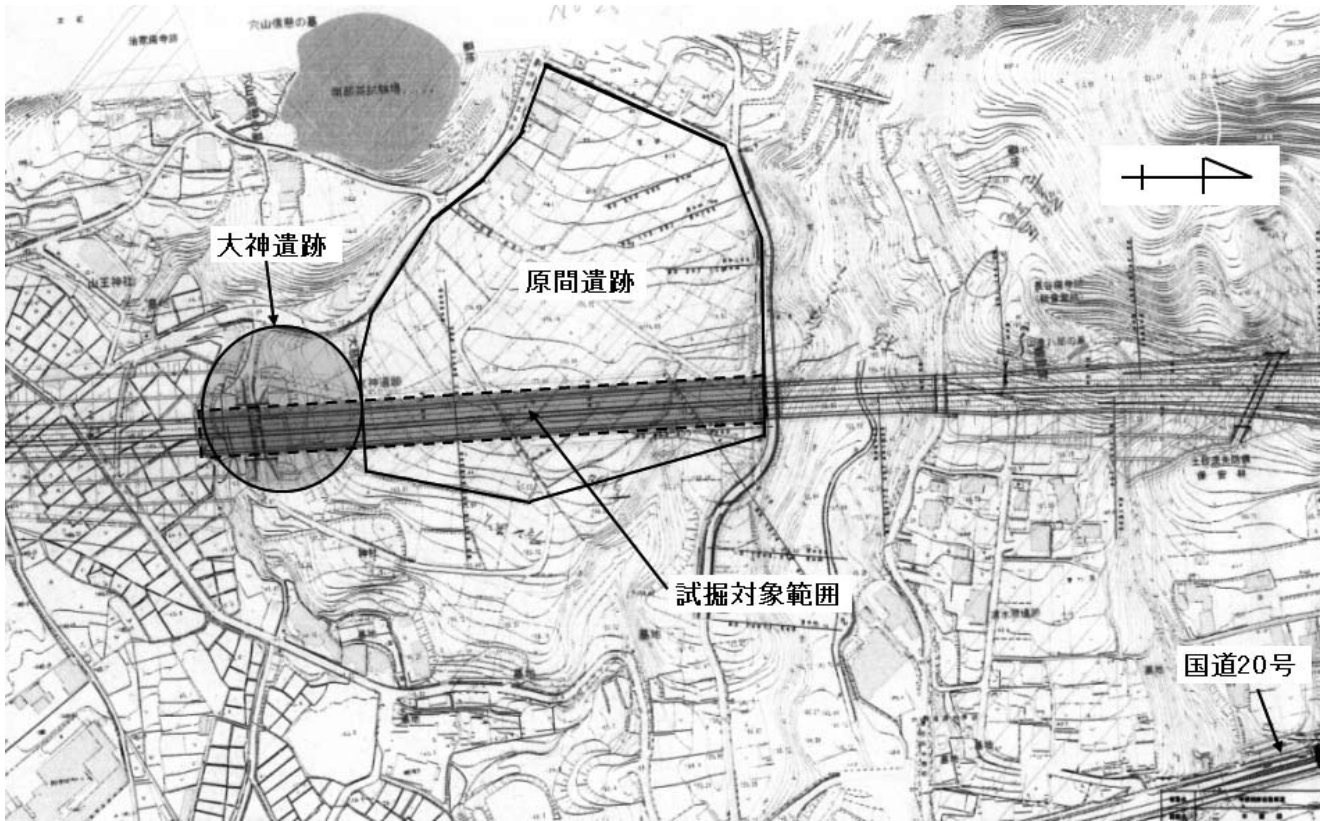
調査区①では、25cmほどの表土下に厚さ 60cmほどの遺物包含層を確認した。このうち、TP2 では上部の暗褐色土から、縄文時代後期の土器が出土している。遺構が確認できなかったものの、遺物の量から遺構内であった可能性もある。この他のテストピットからも暗褐色土層中を中心に遺物が出土しているが、遺構はみつからない。

調査区②には、T 1 の西端付近から南方向に段差が見受けられていた。試掘の結果、この段差よりも東側にあたる T 1、T 2、T 4 の東セクションでは、地表下 20cm～30cmで茶褐色の自然堆積層が確認され、遺構や遺物も検出されていない。一方、この段差よりも西側の T 4 と T 5 では、暗茶褐色土層中より土坑が確認された。また、T 3～5 の褐色土（2 層）及び暗茶褐色土（3 層）からは、縄文土器、打製石斧、黒曜石の剥片が出土している。

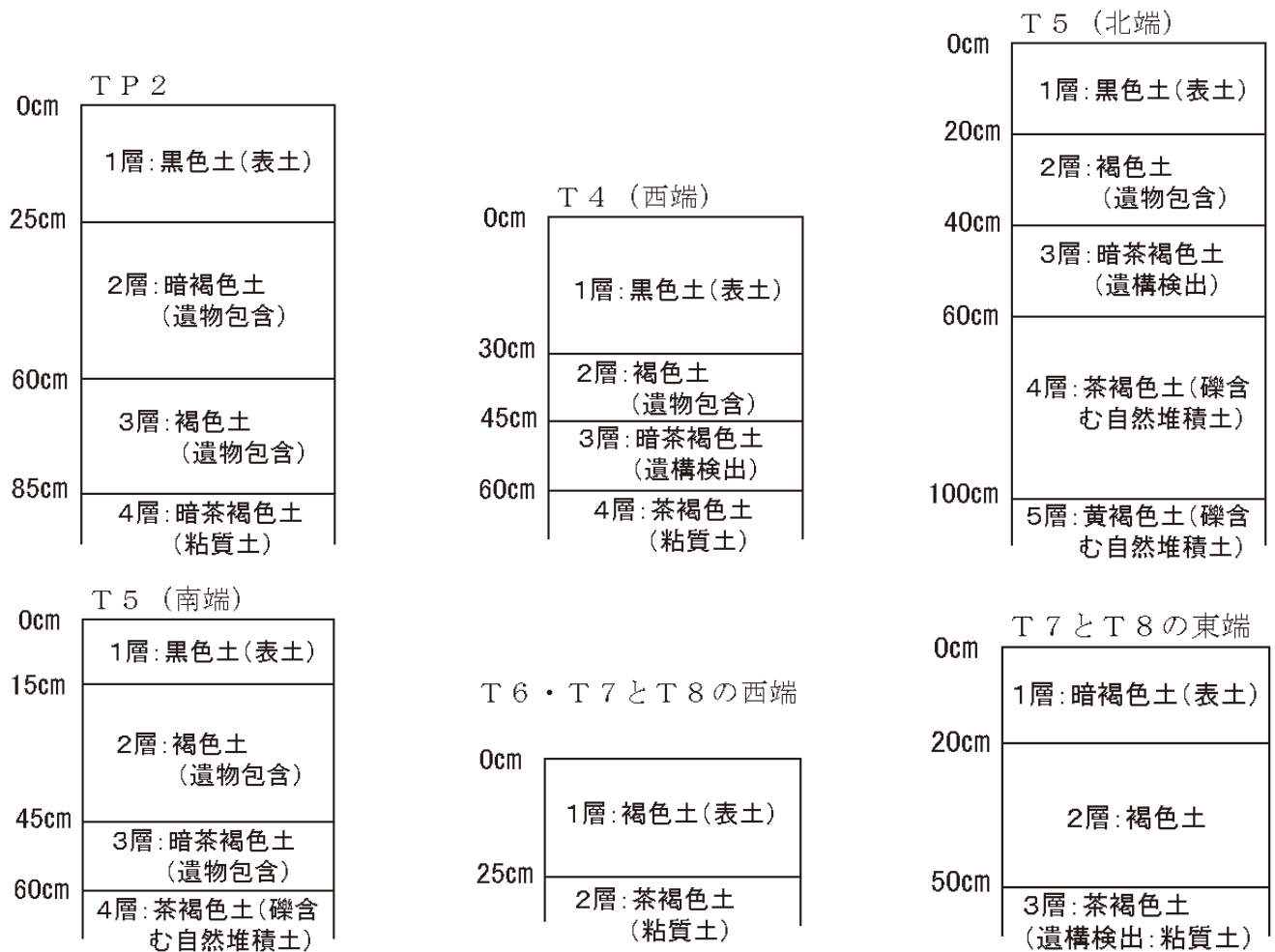
調査区②と③の境には段差があり、③側が一段高くなっている。この両調査区を跨ぐように設定した T 5 では、調査区③側で褐色土（2 層）及び暗茶褐色土（3 層）から磨製石斧の他、多くの縄文土器が出土している。調査区③では、西側（T6）で自然堆積層（茶褐色土）までが地表下 20 - 30cmと浅いが、東側（T7・T8）では表土下に褐色土の堆積がみられ、西側よりも厚い。T7 で検出された土坑 3 基は、褐色土の堆積が確認できた東側でみつまっている。同調査区内の TP11 から TP14 付近では、30cmほどの暗褐色土層（2 層）の堆積がみられた。その下層には褐色土（3 層）の堆積もあり、調査区①に土の堆積状況が酷似していた。また、TP11・TP14 では 2 層と 3 層より縄文土器や石器がみつまっている。この他、周辺の TP12、TP13、TP 15、TP 16 では暗褐色土・褐色土の堆積がほとんどなく、表土直下 20-40cmに暗茶褐色土の自然堆積層を確認した。

全体に南へ傾斜する調査区④では、未買収地を除いた範囲を調査した。T 12 北側に南北で段差があり、この段差北側にあたる T9、T10、TP19～21 では、表土下 20cm～30cmほどで礫を含む自然堆積層が確認された。T10 では、土器が数点みつかったものの、遺構の検出には至っていない。段差より南側では、未買収地付近が比較的平坦なのに対し、T12 南部分で西に急傾斜する谷状の堆積が確認された。同トレンチ内では摩耗した縄文土器 1 点、須恵器 1 点が出土している。

以上のことから、厚さ 60cmほどの遺物包含層が確認された調査区①、遺構や遺物の出土が認められた調査区②及び③については、第 2 図のとおり本調査の必要がある。調査区④については、遺物が数点出土しているものの、遺物に激しい摩耗がみられることから斜面への流入土に混在したものと考えられる。そのため、未買収地を除く範囲については工事による影響がないものと考えられる。しかし、未買収地は比較的平坦な地形であり、調査区⑤（大神遺跡）内に設定した T11 からも遺物が出土している状況から、土地取得後に試掘調査の実施が必要である。



第1図 原間遺跡と大神遺跡の位置と中部横断自動車道建設予定地図



T10 (北端)

0cm	1層: 褐色土(表土)
30cm	2層: 暗茶褐色(粘質)
40cm	3層: 茶褐色土 (粘質土)

T12 (北端)

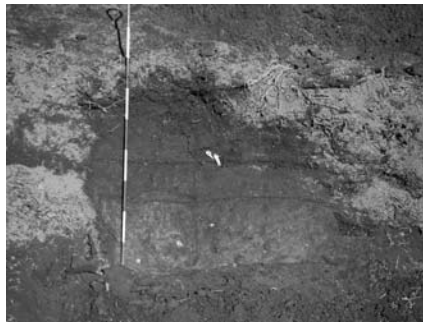
0cm	1層: 褐色土(表土)
30cm	2層: 褐色土
35cm	3層: 明黄褐色土 (粘質土・礫含む)

T12 (南)

0cm	1層: 褐色土(表土)
30cm	2層: 褐色土
65cm	3層: 暗黒褐色土 (粘質土・礫含む 縄文土器出土)
105cm	4層: 黒色土 (粘質土・礫含む)
125cm	5層: 暗褐色土 (粘質土・炭化材含む)
140cm	6層: 暗赤茶褐色土 (粘質土・礫多く含む)



T 2 土層セクション (調査区①)



T 4 西端土層セクション (調査区②)



T 5 (調査区②・③) 北から



T 5 北端土層セクション (調査区②)



T 5 南端土層セクション (調査区③)



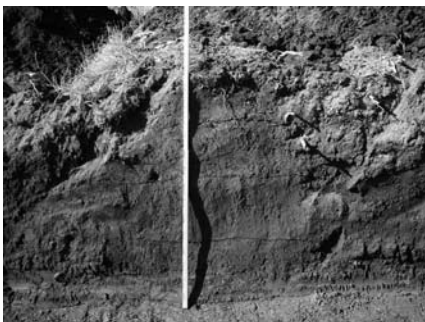
T 7 の掘削状況 (調査区③) 南から



T 1 0 (調査区④) 南から



T 1 2 (調査区④) 北から



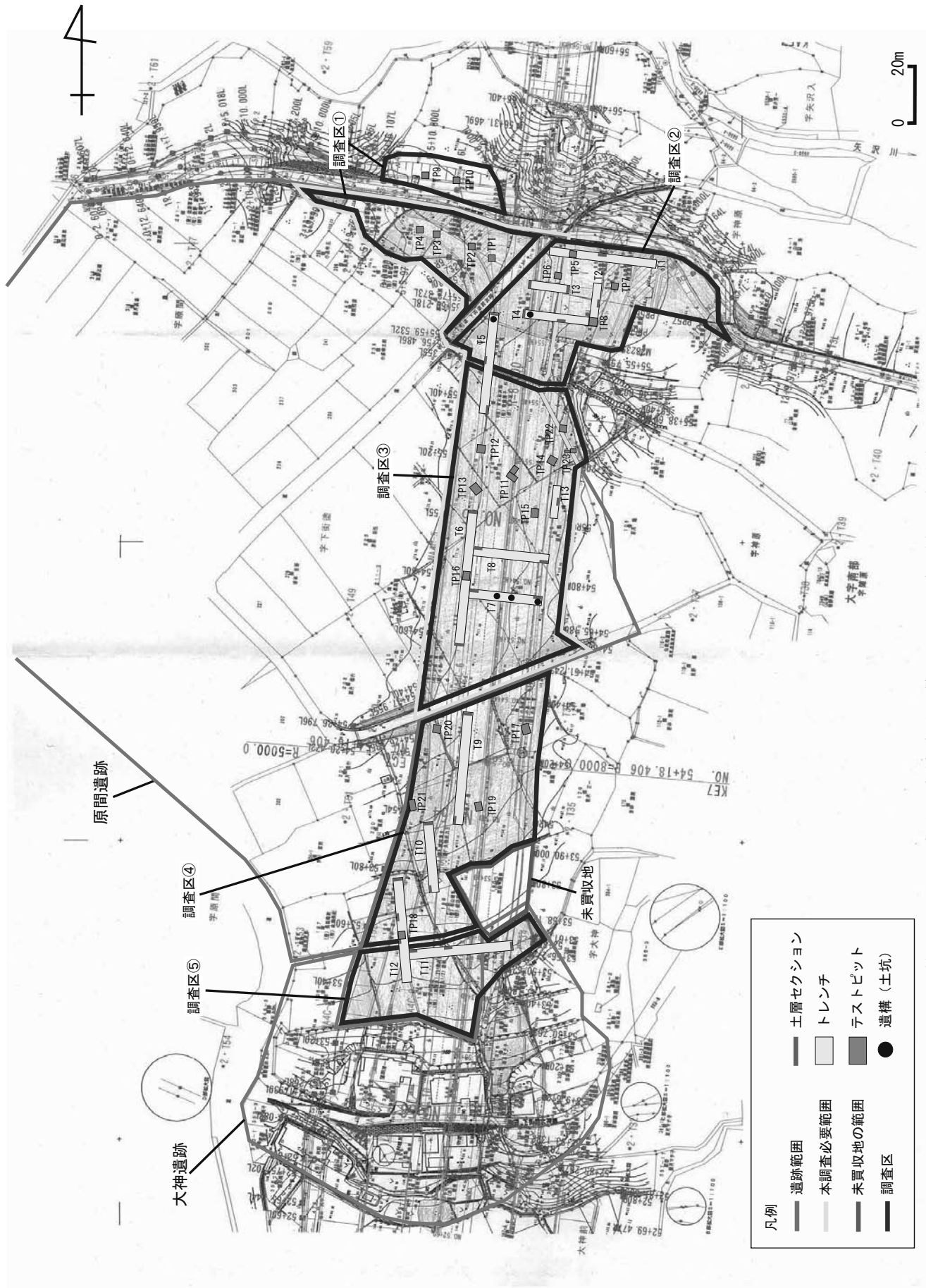
T 1 2 南の土層セクション



縄文土器 (T P 2 の 2 層出土)



打製石斧 (T P 2 出土)



第2図 原間遺跡・大神遺跡の範囲とH20年試掘調査地点

22 中部横断自動車道（南部区間）建設事業 試掘《大神遺跡》

所在地	南巨摩郡南部町本郷字上大神 366 外地内	調査期間	平成 20 年 11 月 19 日～12 月 2 日
担当者	山本茂樹・上原健弥	調査面積	138㎡

調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、中部横断自動車道建設に伴い路線予定地内において実施されている試掘調査の一つである。当地点における対応については、国土交通省、県教委学術文化財課、埋蔵文化財センターによる協議の結果、寺前遺跡での本調査終了後に埋蔵文化財センターによる試掘調査が実施されることとなった。なお、同期間に試掘調査を実施した原間遺跡は隣接地であり、掘削地点（トレンチ及びテストピットの配置状況）は原間遺跡の頁に示した。

大神遺跡は、原間遺跡南側に隣接する周知の埋蔵文化財包蔵地で、船山川に面する南向き斜面部が遺跡範囲の中心となるが、トレンチ設定地点から北側の未買収地付近に平坦部がある。調査対象地は、この遺跡のやや東側を南北に縦断する。南部町史によると、打製石斧が数点採集されており、縄文時代の遺跡であることが知られている。

調査対象地内には、トレンチを 2 本（T 11・T 12）設定し、重機と人力による掘削及び調査を実施した。調査区南端に東西方向に設定した T 11 は、西端で T 12 に接する。また、T 12 はこの接点より南部分が大神遺跡部分に該当し、それよりも北側は原間遺跡に含まれている。

トレンチ 11 は、中央の土層セクション部分を頂点に南西方向へ大きく傾斜している。西端の土層セクションでは、谷部の堆積がみられ、平坦部にあたる中央と東端土層セクションとは異なっている。また、中央部では 1 層（表土）下には東端で確認できた 2 層と 3 層がなかったことから、耕作等によりこれらの層が消失してしまった可能性もある。2 層が残るトレンチ東側からは、遺構は確認されなかったものの、縄文土器片が 2 点出土している。また、重機による掘削排土からは、陶器（灯明皿）が 1 点出土した。

トレンチ 11 の北側には約 450㎡の未買収地が残っており、この範囲については試掘調査を実施していない。そのため、当調査範囲における本調査の必要性については、未買収地の試掘調査結果も踏まえて判断する必要がある。



T 11（西から）



T 11（中央部から西方向へ）



T 11（東から）



T 11（西から）



T 11 の土層（中央）



T 11 の土層（東端）

23 吉田河口湖バイパス建設事業 試掘《滝沢遺跡》

所在地	南都留郡富士河口湖町河口 534 外地内	調査期間	平成 20 年 12 月 15 日～19 日
担当者	保坂和博・大木丈夫	調査面積	516m ²

調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、県土整備部による富士河口湖町河口字滝沢 534 地内ほかにおける吉田河口湖バイパス建設工事（河口 2 期バイパス建設予定地を一部含む）である。

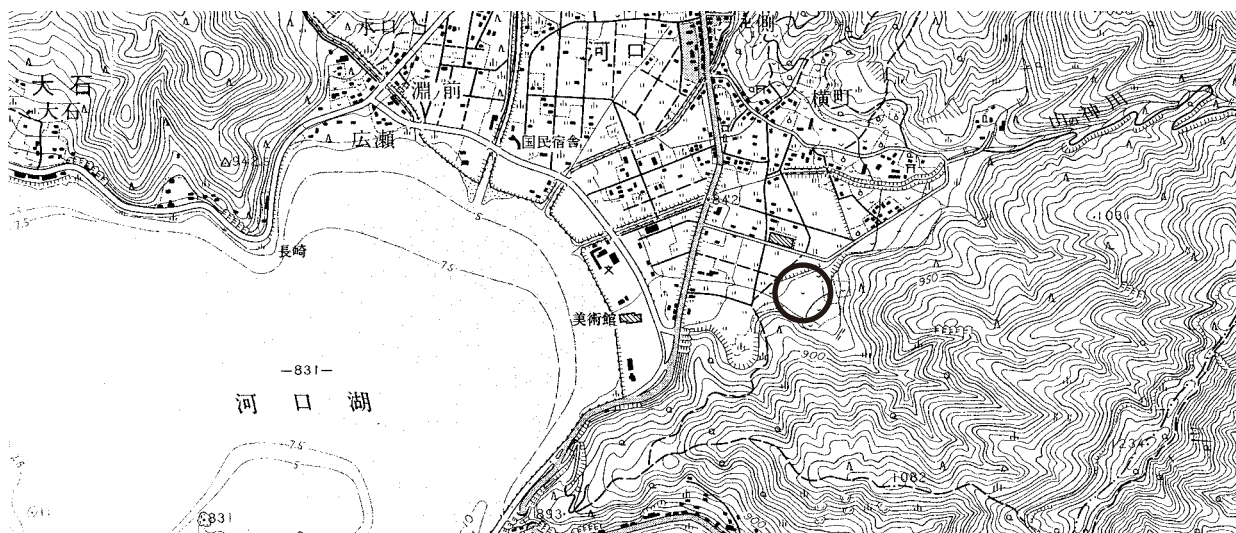
事業予定地には、周知の埋蔵文化財包蔵地である滝沢遺跡が所在し、平成 17 年度の河口 2 期バイパス建設に伴う発掘調査により弥生時代、古墳時代、奈良時代、平安時代の遺構や遺物が確認されていることから、埋蔵文化財包蔵地の範囲、性格、内容等の概要を把握するため試掘・確認調査を実施した。

今回の試掘調査では、長さ約 13～55 m、幅約 1.5 m のトレンチを畑地等の開墾により造成された面に基づいて、上段面（第 8・9 号トレンチ）、中段面 1 地点（第 5～7・10・11 号トレンチ）、中段面 2 地点（第 3・4 号トレンチ）、下段面（第 1・2 号トレンチ）に計 11 本設定し、重機を用いて掘削し、人力による平面及び断面観察を行った。

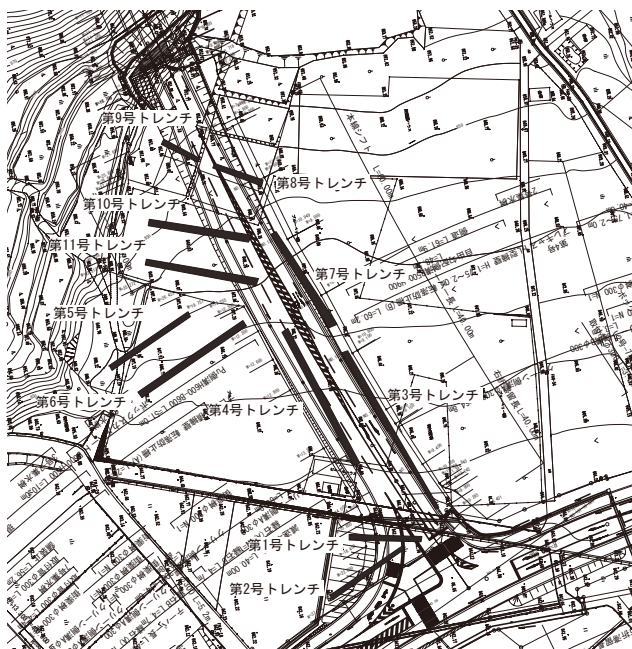
今回の調査区における基本土層は、富士山噴火による堆積や河川氾濫などの影響により 34 層の細別層の堆積が確認され、Ⅰ層～Ⅷ層に大別される（第 4 図参照）。各土層の堆積状況は、Ⅰ層（表土層：1 層、1' 層、1'' 層）が下段面（第 1・2 号トレンチ）から上段面（第 8・9 号トレンチ）に向かって上の地形に沿って徐々に厚く堆積する。Ⅱ層（Ⅰ層直下の無遺物自然堆積層：A 層）は、上段面（第 8・9 号トレンチ）にのみ堆積する。Ⅲ層（縄文時代～平安時代の遺物包含層：2' 層、B 層、C 層、C' 層、D 層）は、B 層、C 層、C' 層、D 層が上段面（第 8・9 号トレンチ）から中段面 1 地点（第 5～7・10・11 号トレンチ）において山地側により厚く堆積し、時期不明の土坑 4 基が確認されている。また、2' 層は鯉の水川の氾濫による堆積層で、中段面 2 地点（第 3 号トレンチ）で厚く堆積する状況が見られる。Ⅳ層（古墳時代～平安時代の文化層：2 層、2'' 層）は、調査区のほぼ全域において見られ、2 層上面に掘り込まれる平安時代の住居跡 3 軒、土坑 5 基、溝状遺構 3 条が確認されている。Ⅴ層（Ⅳ層直下の無遺物自然堆積層：3 層～6 層）は、鯉の水川の氾濫による堆積層で、中段面 2 地点（第 3・4 号トレンチ）から中段面 1 地点（第 6・7 号トレンチ）にかけて確認されている。Ⅵ層（富士山火山灰純層：7 層、10 層とその間の無遺物自然堆積層：8 層、9 層）は、8 層、9 層の自然堆積層を 7 層、10 層の黒色スコリア層が挟むように堆積し、上段面（第 8・9 号トレンチ）と中段面 1 地点（第 5・6・10・11 号トレンチ）それぞれの山地側を除いた調査区のほぼ全域において見られる。7 層及び 8 層上面から掘り込まれた古墳時代以前と考えられる土坑 2 基、溝状遺構 1 基が確認されている。Ⅶ層（Ⅵ層直下の無遺物自然堆積層：11 層～16 層）は、Ⅵ層と同様な地点において堆積する状況が見られる。Ⅷ層（縄文時代の遺物包含層：E 層～G 層とその下部の無遺物自然堆積層：H 1 層～H 5 層）は、Ⅶ層の堆積が見られない上段面（第 9 号トレンチ）と中段面 1 地点（第 5・6・10・11 号トレンチ）の山地側に見られ、北東から南西に向かって傾斜する地形に沿って堆積する。E 層～G 層については、今回の調査では遺物の発見には到らなかったが、これまでに調査された滝沢遺跡をはじめとする塚越遺跡、谷抜遺跡などで確認された縄文時代の遺物包含層に対応するため同時期の包含層として捉えることとした。

検出した遺構は、平安時代の住居跡 3 軒、土坑 5 基、溝状遺構 5 条、古墳時代以前の土坑 2 基、溝状遺構 1 条、時期不明の土坑 4 基が確認された。遺物は、第 1 号トレンチの 14 層で縄文時代の土器片が極少量、第 4～7・10・11 号トレンチの遺物包含層（B 層、C 層、C' 層、D 層）で縄文時代から平安時代の土器片が混在して少量、各トレンチの古墳時代から平安時代の文化層となる 2 層から当該期の土器片が多量に出土する状況である。

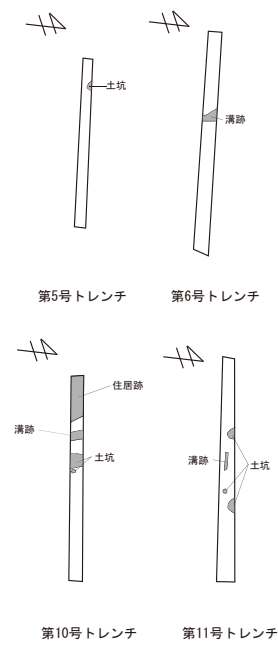
試掘調査の結果、今回の試掘調査対象地全体に遺跡が広がっていることが確認されたため、工事着手前に本調査が必要となる。調査対象となる遺物包含層は、①縄文時代から平安時代の遺物包含層（D 層）：約 3,900m²（上段面：第 8・9 号トレンチ、中段面 1 地点：第 5～7・10・11 号トレンチ）、深さ約 30cm。②縄文時代の遺物包含層（E 層～G 層）：約 1,725 約 m²（上段面：第 9 号トレンチと中段面 1 地点：第 5・6・10・11 号トレンチの山地側）、深さ約 120cm。調査対象となる文化層は、古墳時代から平安時代の文化層（2 層）1 面となり、約 5,908m²である。



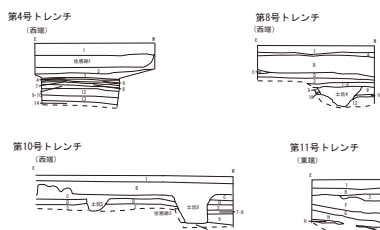
第1図 吉田河口湖バイパス建設事業位置図



第2図 試掘トレンチ配置図



第3図 主な検出遺構配置図



- 1 (1000) 1 遺構未検出、土層中のみ、数箇所で検出、遺構未検出。
- 2 (1000) 2 遺構未検出、土層中のみ、数箇所で検出、遺構未検出。
- 3 (1000) 3 遺構未検出、土層中のみ、数箇所で検出、遺構未検出。
- 4 (1000) 4 遺構未検出、土層中のみ、数箇所で検出、遺構未検出。
- 5 (1000) 5 遺構未検出、土層中のみ、数箇所で検出、遺構未検出。
- 6 (1000) 6 遺構未検出、土層中のみ、数箇所で検出、遺構未検出。
- 7 (1000) 7 遺構未検出、土層中のみ、数箇所で検出、遺構未検出。
- 8 (1000) 8 遺構未検出、土層中のみ、数箇所で検出、遺構未検出。
- 9 (1000) 9 遺構未検出、土層中のみ、数箇所で検出、遺構未検出。
- 10 (1000) 10 遺構未検出、土層中のみ、数箇所で検出、遺構未検出。
- 11 (1000) 11 遺構未検出、土層中のみ、数箇所で検出、遺構未検出。
- 12 (1000) 12 遺構未検出、土層中のみ、数箇所で検出、遺構未検出。
- 13 (1000) 13 遺構未検出、土層中のみ、数箇所で検出、遺構未検出。
- 14 (1000) 14 遺構未検出、土層中のみ、数箇所で検出、遺構未検出。
- 15 (1000) 15 遺構未検出、土層中のみ、数箇所で検出、遺構未検出。
- 16 (1000) 16 遺構未検出、土層中のみ、数箇所で検出、遺構未検出。
- 17 (1000) 17 遺構未検出、土層中のみ、数箇所で検出、遺構未検出。
- 18 (1000) 18 遺構未検出、土層中のみ、数箇所で検出、遺構未検出。

第4図 土層図



6号トレンチ土坑検出状況



遺物出土状況



11号トレンチ土坑検出状況

24 芦ノ沢川砂防建設事業 立会《山梨市牧丘町西保中地内》

所在地	山梨市牧丘町西保中字大村上地内	調査期間	平成20年2月1日
担当者	坂本美夫・猪股一弘	調査面積	2㎡

調査経緯及び事業内容と結果

事業地は、芦ノ沢川右岸上にある東破魔射場（浜井場）遺跡の縁辺部付近における堰堤部分と西側の右岸上の農道部分である。堰堤手前の掘削部分の土層は、地山の礫を多数混入した黄褐色土層の上部に黒褐色の表土がのっているのが確認された。この表土は、川に落ち込む法面部で約60cm、平坦部では15cm前後の厚さであった。いずれの面においても、遺構を切り込んだ状況や、遺物の出土はみられなかった。

堰堤横の農道部分については、拡幅部となる畑を掘削したが、堰堤手前の法面の状況と同様、表土（耕作土）は15cmほどの厚さであり、以下が地山である礫を多量に混入した黄褐色土層で、遺構、遺物は全く確認できなかった。よって遺跡の存在は無いものと考えられたため、工事を進めても差し支えない旨を報告した。



第1図 芦ノ沢川砂防建設事業位置図



堰堤部分掘削状況



農道部分掘削状況

25 県庁朝日別館解体事業 立会《甲府市朝日地内》

所在地	甲府市朝日3丁目11-13地内	調査期間	平成20年2月7日、3月5日
担当者	小野正文・坂本美夫	調査面積	2㎡

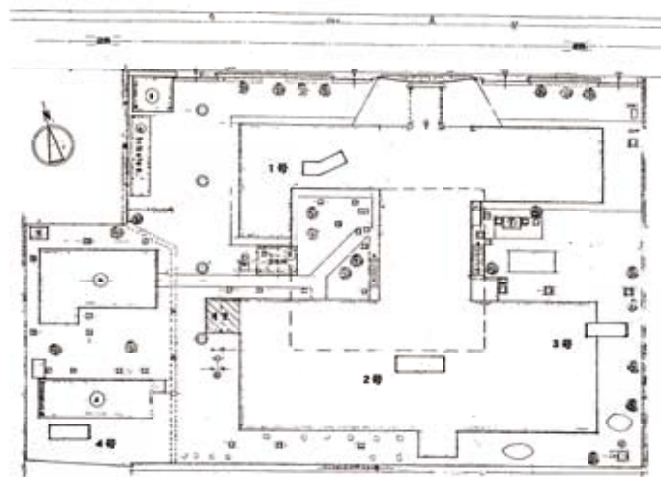
調査経緯及び事業内容と結果

事業地は、塩部遺跡の周辺（北側）にあるため立会調査をおこなった。調査は工事日程に合わせ2月と3月との2回、それぞれ2箇所ずつトレンチを設定して実施した。いずれのトレンチにおいても客土がみられ、その厚さは浅いところで0.7m（北側）、深いところで1.7m（東側）であった。その下の茶褐色土層（粘性）ないし黒褐色土層（粘性）から旧地表となるものと考えられ、黄褐色土層（砂質）の地山へと移行する。このうち東側のトレンチで茶褐色土層は見られないものの、旧地表はほぼ北から南、西から東へと徐々に低くなる傾斜面を形成していることが確認できた。しかし、これらの土層は、ほぼ水平に近い堆積状況をみせており、確認された切込みも旧地表からの溝や配管に伴うもので、また、遺物についても皆無であった。

よって遺跡の存在は無いものと考えられたため、工事を進めても差し支えない旨を報告した。



第1図 立会調査位置図



第2図 トレンチ配置図

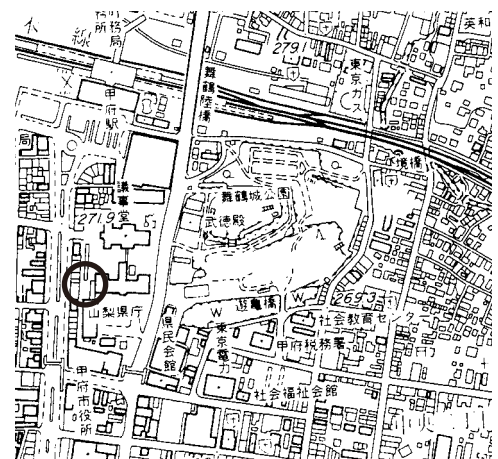
26 県庁駐輪場屋根設置事業 立会《甲府城跡》

所在地	甲府市丸の内1丁目地内	調査期間	平成20年7月15日
担当者	野代幸和・長田隆志	調査面積	2.56㎡

調査経緯及び事業内容と結果

立会調査地点に隣接する地点から土塁に関する暗渠と考えられる遺構が確認されていることから、学術文化財課と管財課で事前協議を実施し、7月1日に工程ならびに対応に係わる連絡があった。これを受けて当センターでは、現況地盤掘削時において、埋蔵文化財の確認調査を実施した。

調査は1.6m×0.8mの基礎設置溝2基を対象に実施した。掘削深度は0.6mであり、隣接遺構確認面の1.2mより浅く遺構や遺物は確認できなかった。このため、工事進捗状況と土層断面の記録写真をとり、立会調査を終了した。



第1図 立会調査位置図

27 かえで支援学校車庫基礎撤去事業 立会《甲府市東光寺地内》

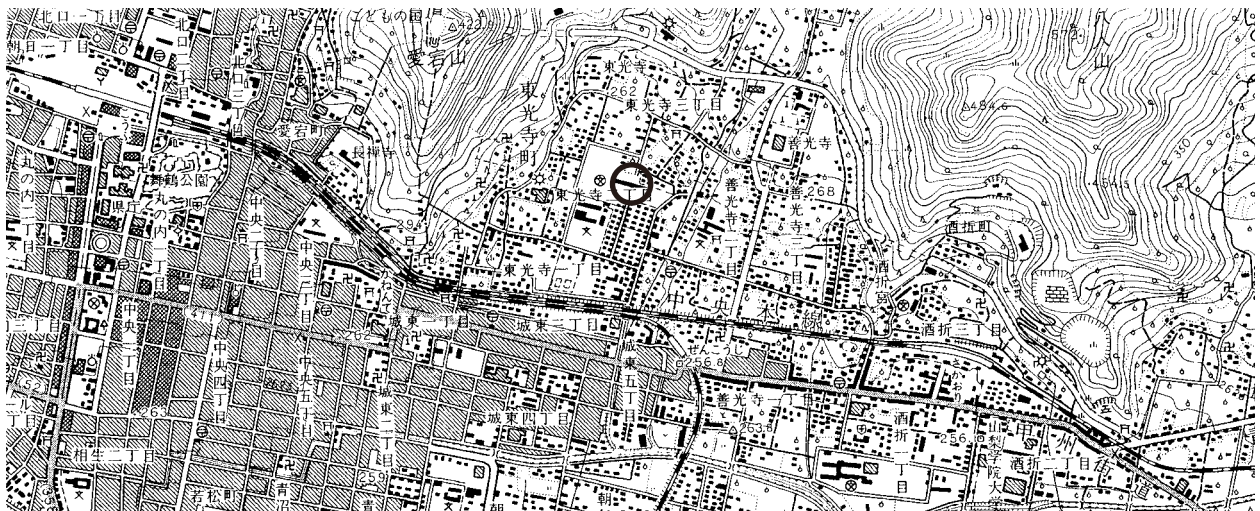
所在地	甲府市東光寺 2-25-1 地内	調査期間	平成 20 年 6 月 20 日
担当者	笠原みゆき	調査面積	13.5㎡

調査経緯及び事業内容と結果

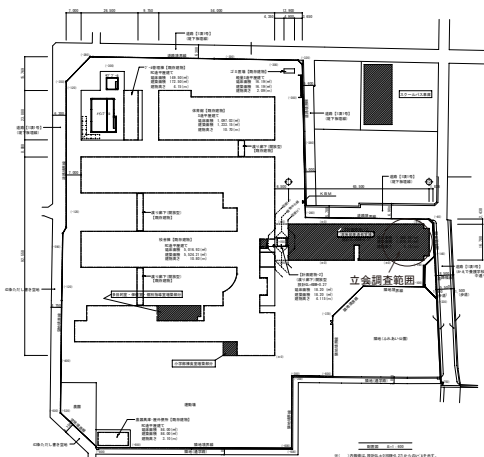
立会調査地点は、かえで支援学校校門を入ってすぐ右手にあった元送迎用バスの車庫である。本事業は、かえで支援学校の校舎増築に先立つ、車庫の基礎部分撤去事業の立会調査である。調査は、基礎部分の撤去作業の間に、掘削を行い遺構・遺物・土層の堆積状況などを確認した。当日、すでに、北側 1/3・西側・南側の 1/3 以外の基礎は撤去済みで、部分的に埋め戻されていない場所には、地表から 80cm ほどの水位で水が溜まっていた。基礎を撤去した部分は、埋め戻して地盤が弱くなっているため重機が入れず、南側・西側の基礎に近い部分で調査を行った。

調査の結果、第 1～第 3 地点において地表下 1 m ほどは、旧建物の基礎や廃材などによる攪乱が確認された。それ以下では、自然堆積層となる粒子の違う青灰色砂質土が、何層にも重なり、厚く堆積していた。なお、第 3 地点では、基礎の下部を掘り下げると、地表下 2 m ほどで、時期不明の工事用基礎の杭（直径 30cm）列が確認された。

今回の調査地は、数回の立替を経ているためか、地表から 1 m ほどはかなり荒れており、遺構・遺物とも確認できなかった。また、隣接する普通駐車場については、旧建物基礎が同じように続いていることが予想されるため、試掘調査の必要性はないと判断した。



第 1 図 かえで支援学校車庫基礎撤去事業位置図



第 2 図 立会調査位置図



第 1 地点全景



第 1 地点土層堆積状況

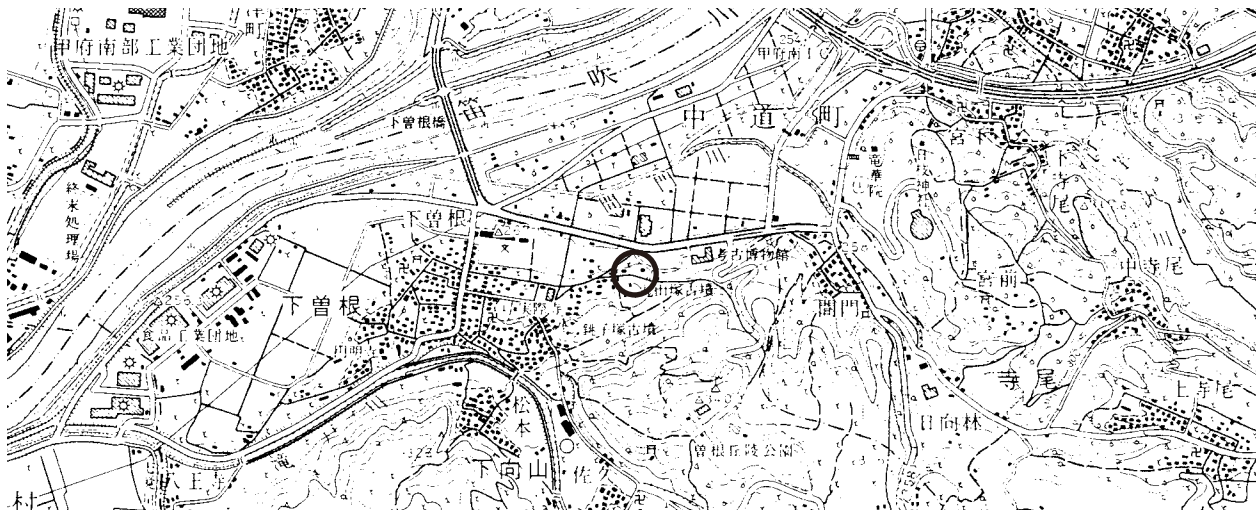
28 風土記の丘・曾根丘陵公園整備事業 立会《甲府市下曾根町地内》

所在地	甲府市下曾根町字岩清水 899 外地内	調査期間	平成20年11月18日、12月11日～12日、18日
担当者	保坂和博・笠原みゆき・大木丈夫	調査面積	91m ²

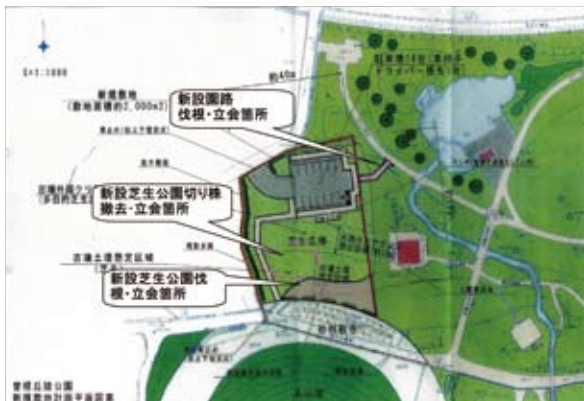
調査経緯及び事業内容と結果

立会調査地点は、甲斐風土記の丘・曾根丘陵公園内、史跡丸山塚古墳北側に位置する。平成19年度の用地取得に伴い公園整備が計画され、同年度中に試掘調査が行われている。今回の立会調査地点に隣接する丸山塚古墳の周濠は、北側の一部が史跡指定範囲から外れており、最近まで駐車場のよう利用されていた。今回は、この周濠の整備を含め、新設公園を設置するものである。

丸山塚古墳は県内最大の円墳であり、周濠の外側に周堤帯の存在が指摘されており、掘削の際には立会を必要とする。今回の立会調査では、用地内の切り株撤去時、周濠と民地との緩衝地帯に植えられていた樹木の抜根と、既設公園から新設公園への新設園路掘削時の3回に渡り立会調査をおこなった。調査の結果、1回目の切り株の撤去では、切り株自体が腐食しており、掘削が15～20cmほどであった。土層観察と遺構の確認を行ったが、遺構・遺物は確認されず、土層についても褐色の耕作土であった。2回目の新設園路地点と、新設芝生公園地点での樹木の抜根に伴う立会調査では、18本の樹木の抜根が行われた。掘削深度は20cm程度で、深いところで約35cmほどである。平成20年2月14日～15日に実施した試掘調査第5・6号トレンチの第1・2・5・6層に対比されると思われる耕作土以下の自然堆積層を確認したが、遺構・遺物は検出されなかった。3回目の新設園路の掘削では、掘削深度約20cmほどで、厚い腐葉土の下に礫が入る客土が見られたが、遺構・遺物の検出には至らなかった。



第1図 風土記の丘・曾根丘陵公園整備事業位置図



第2図 立会調査位置図



立会調査地点全景



掘削状況

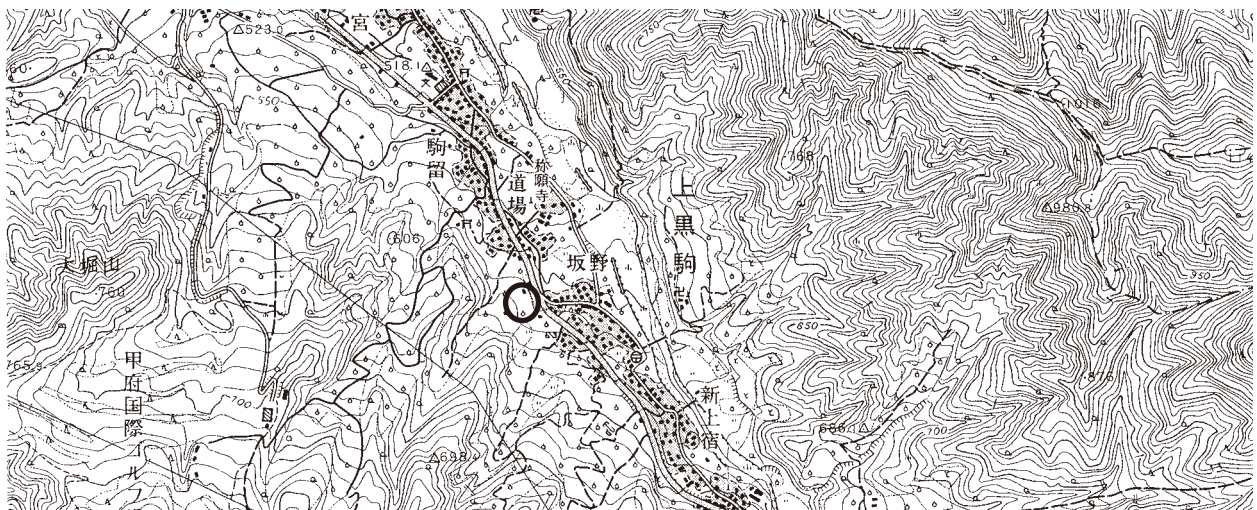
29 山梨リニア実験線建設事業 立会《笛吹市御坂町上黒駒地内》

所在地	笛吹市御坂町上黒駒 3632 外地内	調査期間	平成 20 年 11 月 5 日～ 6 日
担当者	保坂和博・笠原みゆき・大木丈夫	調査面積	20m ²

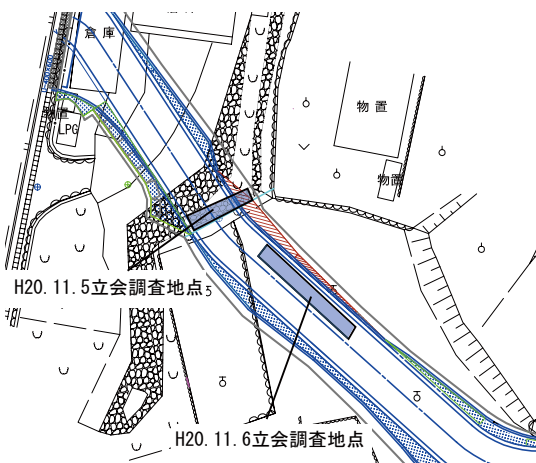
調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、旧国道 137 号と上黒駒バイパスを結ぶ民地を借地しての工事用道路を建設する工事で、地形の傾斜に合わせた切土と盛土による掘削計画である。平成 20 年 5 月 20 日に実施した現地踏査に基づき、地形的な環境から遺跡が存在すると考えられた笛吹市御坂町上黒駒 3632 番地外で立会調査を実施することとなった。今回の立会調査は、工事工程に合わせ切土される地点において 2 日間にわたり実施した。第 1 日目（11 月 5 日）の立会は、旧国道 137 号側からの重機搬入口の造成に伴い長さ約 4 m、幅約 2 m、深さ約 1 m の掘削範囲において遺構確認と土層観察を行った。第 2 日目（11 月 6 日）の立会は、4 地点～ 6 地点における長さ約 15 m、幅約 0.8 m、深さ約 0.6 m（最深部約 1.2 m）の掘削範囲において遺構確認と土層観察を行った。両地点における土層堆積状況は、地表から 0.3～0.6 m ほどは耕作土（部分的に人頭大の花崗岩を含む黒褐色土層が約 0.3 m 残存）、その下は、黄褐色粘質土層（花崗岩質の直径 2 ミリ程度の粒子を多量に含む）、さらに黄褐色粘質土層（層拳大の礫を多量に含む）が確認された。

立会調査の結果、表土層以下は地山層となり遺物や遺構は全く確認できず、遺跡はないと考えられたため、工事を進めても差し支えない旨を報告した。



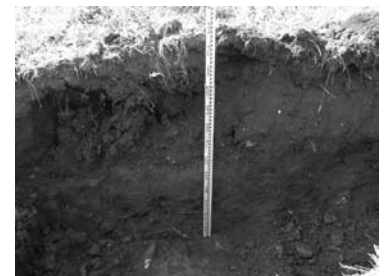
第 1 図 山梨リニア実験線（工事用道路）建設事業位置図



第 2 図 立会調査位置図



11 月 5 日調査地点



11 月 6 日調査地点

30 赤芝川河川改修事業 立会《山梨市牧丘町牧平地内》

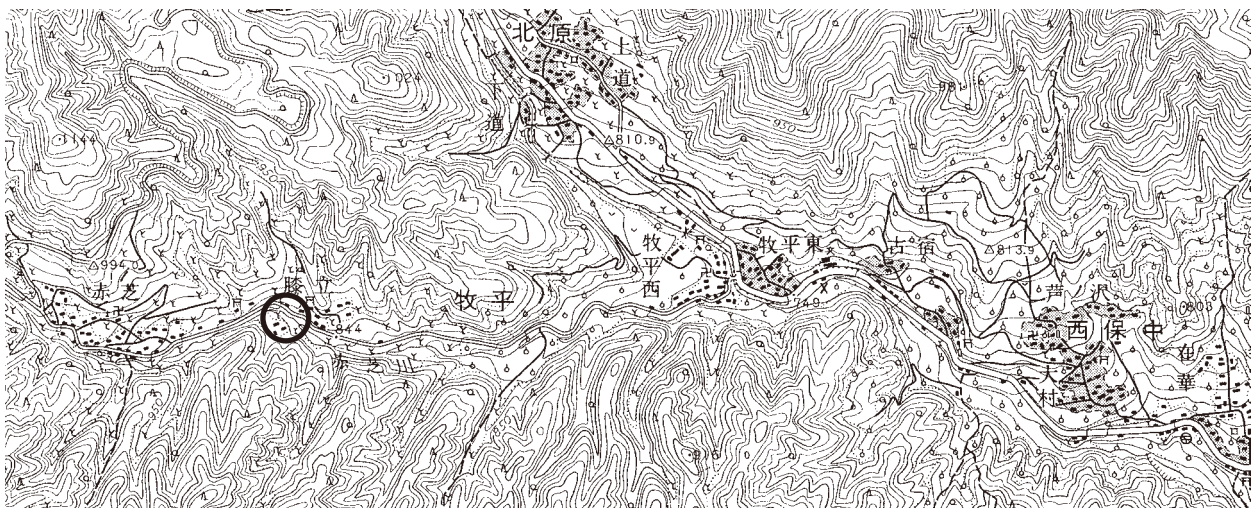
所在地	山梨市牧丘町牧平 1954 外地内	調査期間	平成 20 年 12 月 1 日、平成 21 年 1 月 15 日
担当者	保坂和博・大木丈夫	調査面積	130m ²

調査経緯及び事業内容と結果

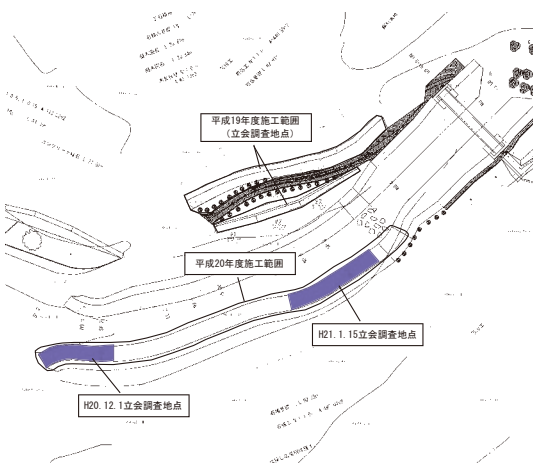
本事業は、生活関連土木施設整備事業による赤芝川河川改修であり、新たに河床を掘り下げ、その際に検出した巨石を利用し、約 64 m にわたり護岸する工事である。事業予定地に隣接して周知の埋蔵文化財包蔵地が所在することから立会調査を実施することとなった。本年度の事業箇所は、昨年度実施した立会調査地点の対岸にあたる。昨年度の立会調査では、遺跡は確認されていない状況である。

立会調査は、平成 20 年 11 月 20 日に実施した現地協議に基づき、工事工程に合わせ 2 回に分けて行った。第 1 日目（平成 20 年 12 月 1 日）の立会は、掘削開始初日に川下側末端の長さ約 10 m、幅約 5 m、深さ約 3 m の掘削範囲において遺構確認と土層観察を行った。第 2 日目（平成 21 年 1 月 15 日）の立会は、川上側末端の長さ約 16 m、幅約 5 m、深さ約 3 m の掘削範囲において遺構確認と土層観察を行った。

両地点における土層堆積状況は、左岸の斜面地（竹林）の掘削範囲では、表土層以下は地山層となり、また河床掘削範囲では、河川堆積層以下は地山層となり、いずれも遺物や遺構は全く確認できず、遺跡はないと考えられるため、工事を進めても差し支えない旨を報告した。



第 1 図 赤芝川河川改修事業位置図



第 2 図 立会調査位置図



12 月 1 日調査地点



1 月 15 日調査地点

報告書抄録

ふりがな	やまなしけんないぶんぶちょうさほうこくしょ
書名	山梨県内分布調査報告書（平成20年）
シリーズ	山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第263集
発行者	山梨県教育委員会
編集者名	保坂和博、大木丈夫
編集機関	山梨県埋蔵文化財センター
所在地	山梨県甲府市下曾根町 923
連絡先	Tel 055-266-3016 Fax 055-266-3882
発行日	平成21年（2009）3月25日

事業名	所在地
生活関連土木施設（丸山塚古墳北）整備事業	甲府市下曾根町字岩清水 899 外地内
中部横断自動車道（増穂 IC）建設事業	南巨摩郡増穂町青柳字整理地内
平等川河川改修事業	甲府市上阿原字村東 16-4 外地内
中部横断自動車道（南部 IC）建設事業	南巨摩郡南部町中野字寺前 4085-1B 外地内
燃料電池研究開発関連事業	甲府市宮前町 6-43 地内
県庁舎耐震化等事業	甲府市丸の内 1 丁目地内
山梨リニア実験線（工用道路）建設事業	笛吹市御坂町大野寺 1839 外地内
平等川河川改修事業	甲府市上阿原字整理地 96-2 外地内
中部横断自動車道（南部 IC）建設事業	南巨摩郡南部町中野字清水原 4908-2 外地内
一般国道 52 号（上石田）改良事業	甲府市上石田 2 丁目 835-1 外地内
中部横断自動車道（増穂 IC）建設事業	南巨摩郡増穂町大字大柵 771-1 外地内
かえで支援学校車庫棟新築事業	甲府市東光寺 2-25-1-1 外地内
山梨リニア実験線（工用道路）建設事業	笛吹市御坂町竹居 4781 地内
山梨リニア実験線（工用道路・作業ヤード）建設事業	笛吹市御坂町上黒駒 6177 外地内
峡東第四総合学科高校建設事業	笛吹市石和町市部 3 地内
平等川河川改修事業	笛吹市春日居町鎮目 1536-11 外地内
防災ステーション建設事業	南巨摩郡増穂町青柳 1706 外地内
中部横断自動車道（八之尻トンネル）建設事業	西八代郡市川三郷町字谷津 1772-1 外地内
中部横断自動車道（増穂 IC）建設事業	南巨摩郡増穂町字青柳 1148-1 外地内
中部横断自動車道（南部区間）建設事業	南巨摩郡南部町中野 4171 外地内
中部横断自動車道（南部区間）建設事業	南巨摩郡南部町本郷字原間 309 外地内
中部横断自動車道（南部区間）建設事業	南巨摩郡南部町本郷字大神 366 外地内
吉田河口湖バイパス建設事業	南都留郡富士河口湖町河口 534 外地内
芦ノ沢川砂防建設事業	山梨市牧丘町西保中字大村上地内
県庁朝日別館解体事業	甲府市朝日 3 丁目 11-3 地内
県庁駐輪場屋根設置事業	甲府市丸の内 1 丁目地内
かえで支援学校車庫基礎撤去事業	甲府市東光寺 2-25-1-1 外地内
風土記の丘・曾根丘陵公園整備事業	甲府市下曾根町岩清水 899 外地内
山梨リニア実験線（工用道路）建設事業	笛吹市御坂町上黒駒 3632 外地内
赤芝川河川改修事業	山梨市牧丘町牧平 1954 外地内

山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第263集

山梨県内分布調査報告書 （平成20年）

印刷日 2009（平成21）年3月23日
 発行日 2009（平成21）年3月25日
 編集 山梨県埋蔵文化財センター
 〒400 - 1508
 山梨県甲府市下曾根町 923
 T e l 055-266-3016
 F a x 055-266-3882

発行 山梨県教育委員会
 印刷所 株式会社 峡南堂印刷所